

SPUR

2019-2020 season



北海道大学エレガントスキー部

はじめに

こんにちは、第54代渉外部の伊保内です。

例年、エレガントスキー部ではこちらの SPUR を部員全員が書いております。SPUR とはドイツ語で「軌跡」を意味する単語で、スキーにおいては自分が滑った跡を意味します。ゲレンデや雪山に見られる曲線がそれです。ここでは、部員それぞれの 1 年間の「軌跡」を書いてもらい、良い振り返りの機会を作ります。

SPUR をご覧いただくことで、日々の私たちの発信とは違ったエレガントスキー部の内側が見られると思います。スキーへのそれぞれの思いだったり、何に熱中していたかなど、部員の意外な一面を発見できるかもしれません。

それでは、2019-2020 シーズンの部員の「軌跡」を最後までご覧ください。

2019.07

第54代執行部渉外担当

伊保内 将太

第53代部長 中島慧

執行部としてのシーズンが終わってしまいました。

まずは、1年間エレガントスキー部を支えてくださった皆様に感謝を申し上げます。我々のために時間を割いてトレやスキーを教えてくださいましたコーチの皆様、急なお願いであったにも関わらず大人数での使用を許可してくださったスキー場の皆様、決してまとまっていたとは言えない執行部に対してサポートしてくださったOBの皆様、運営の相談に逐一のってくださった顧問の山本先生、そしてスキーの上達を至上命題として生きてきた同期の皆さん、本当にありがとうございました。

1年間、総合優勝に向けて本気で取り組んできましたが、土俵にも立たせてもらえませんでした。2/26（水）14:07に届いたメールは、一生忘れることはないでしょう。

件名：【最重要】全国学生岩岳スキー大会 開催中止～基礎スキーの部・アルペン競技の部

雪不足の中、岩岳開催を信じて運営し、努力してきた今シーズンでしたが、そのやり場を失いました。選考会をなんとか開催すべく、斜面に這ってでもダウンヒルのコブを潰した1月15日。玄さん頑張ったね笑。



藻岩の南斜面が草原状態だったため他のスキー場を探し、北長沼スキー場を探しあてた2月3日。そこから強化練、団体練のスケジュールと班分けを組み直しました。雅史がエクセルで使う関数は意味わかりません。

こんな感じで、スキー技術の向上以前に苦労したことはたくさんありました。ただ、今年の雪不足を経験したことで、エレガントスキー部はたくさんの方々に支えられているということを実感しました。スキー場の方からコーチの方、顧問の先生まで、数多くの大人の方が好意的にサポートしてくださっているからこそ、活動が成り立っています。

「大人に支えてもらう事ができる」という基盤を持っていること、これこそがエレガントスキー部の強みです。学連の他の大学の状況を考えてみてください。こんなに恵まれた環境が他にありますか？スキーを本気でできる環境がここにはあります。それは、先輩方が築き上げてきた人脈のおかげです。先輩方が代々、優勝へ向けて強い思いを持ち、スキーに対して真摯に向き合い、外部の方への礼儀をしっかりしていたからです。

そういった根本的な、常識的な部分を大事に守り、この強みを存分に活かすことが、執行部の仕事ではないでしょうか。と、執行部を終えてみて感じています。

さて、第53代は、2年生の時の11月から数えて67回ミーティングをしました。議事録をささっと読んで、振り返ろうと思います。

11月、役職を決める。東区の南の方に住んでいた誰かが「責任ある仕事がしたい」と言った時は人生で一番驚きましたね。

2月、本格的に目的、目標を考え、決定。確か未緒が言った言葉が採用されたと思うんですが、これ以上ない文言でした。完璧でしたね。

3月、とっても忙しかった。スケジュールというより、精神的に急かされてる感じでした。たたきあいの準備をして、朝里大会があって、春練もあるしコブ練もあるし試乗会もある。やっと3月の行事が終わったと思ったら、新歓の準備。ギリギリのところで運営していた気がしますね。

4月、新歓スキー。大変でしたね。神経すり減らしました。

5月、やっとひと段落。ここから技術部とトレ部が頑張ってくれましたね。

6月、執行部が楽しむトレ合宿。怒られました。そのあとのMの自分の発言が一字一句残っているので恥ずかしい。でも、大きな転換点だったと個人的に思いますね。

7月、冬の話がちょこちょこ始まる。北海道予選が2月になった衝撃たるや。朝里を使うか使わないかはずっと議論しましたね。

8月、なつやすみ！

9月、執行部にとってほぼ初めてのグレステン。なんで札幌駅北口集合だったんだ??同じミスを2回繰り返す。

10月、師弟発表。ドラフト形式にしたけど、スベった。

11月、国際のオープンが1週間遅れる。雪不足の兆候がすでにここにありましたね。

12月、5回目の遅刻。反省文短すぎですね。

1月、土壇場で選考会二日間開催。決定が遅くなってしまい本当に申し訳ありませんでした、

2月、藻岩終了のお知らせ。諸岡のファインプレー（強運か）と、玄の仕事を雅史が奪ったことによりなんとか運営できましたね。

3月、オワタケ。何も言うことはありません。

以上。

最後に、本当に、心から、拙い運営をしてしまいました。OB・OGの皆さん、4年生の皆さん、後輩の皆さん、ありがとうございました。特に同期には、なかなかリーダーらしくない自分を支えてくださって、感謝しています。

1年間、ありがとうございました。

第53代副部長 加藤慧

・昨シーズンの振り返り

まずは昨シーズンの振り返りをしていきたいと思う。昨シーズンは2年目の時に岩岳大会に出られなかった悔しさから、必ず岩岳大会に出場して、優勝してやると意気込んでオフからかなりモチベーション高く活動できた。エレの全体のトレに加えて、個人的に夜ランニングをしたり、インラインをしたりした。おかげでシーズンインするまでに大幅に減量することができた。

シーズンに入ってから減量に成功したおかげもあってか昨シーズン全くできなかったこぶと小回りがなぜか少し出来るようになっていた。また師匠として弟子に教える機会を持ったことによって、様々なスキーの理論について理解を深めることができた。シーズン最初の大会である札幌予選で良い成績を残せたこともあって、少し自信を持って選考会に臨むことができた。昨年落ちていたこともあり緊張したが無事通過できた（2年連続手はついた笑）。本来は団体Bチであったが、Aチとして出場機会をいただき2月期は高いレベルの中、憧れであった団体練習にも励んだ。積雪不足の影響で使用バーンが読めない中様々なシチュエーションを想定した練習がサポートの皆さん、北長沼スキー場の皆様のおかげで行えたと思う。そして岩岳に向けての壮行会をした。その後の記憶は無い。

・執行部の振り返り

執行部では副部長として活動を行なった。自分たちが一年生の時の初めての岩岳大会で6連覇を逃し、そこから二年連続で優勝できておらず、優勝というものがどんなものか見てみたい、このモチベーションで岩岳大会に向けて活動をしていた。僕たちの代は例年より人数がかなり多かったので、ミーティングでは様々な角度から客観的にどれが最適な選択肢なのかを選択することができていたと思う（脱線することも多かったけど…ごめんなさい）。また部長は最初こそ少し固かった（いい意味で）がだんだんと柔軟さをおねそなえていき、冷静で絶対に道を踏み外さない完璧な統率をしてくれたと思う。口に出して言ったことは無かったがものすごく信頼していた。同期のみんなからの信頼もものすごく厚かった。

シーズンに入ってから未曾有の雪不足に見舞われ、講習等の変更が相次ぎ、ミーティングでの議題はたくさんあった。また藻岩が使えないことになり、代替のスキー場を探したり、予定を組み換えたりと本当に大変だった。しかし同期のみんなと協力し合い、乗り越えることができた。まあ雪不足はなんとか乗り越えることができたが、その先に待つ未曾有のウイルスにはなす術がなかった。

・最後に

エレガントスキー部の昨シーズンの活動を通して、スキーの技術的な部分の成長はもろんのこと、それ以上に人間として成長できたと思う。様々な状況において部員のため優勝するために最適な選択をしていくことの難しさを知った。後輩のみんなにはエレガントスキー部での活動を通じて、スキーの技術だけでなく人間的に成長して欲しいと思う。この人間的成長をするための第一歩として「俯瞰の目」を持ってほしい。ある行動を起こそうとするとき、そのひと時の感情に任せて行動するのでは無く一旦我に返って、「俯瞰の目」で自分や組織が周りからどのように見られているのか、考えて行動してほしいと思う。

第53代副部長 柴田伸彦

執行部としての活動を終え、2019-20シーズンを振り返ろうと思います。

エレとしての活動のピークである執行部において、存在感を示せなかったことをまず反省します。昨シーズンの反省を一言でするなら「エレらしくない」人になっていました。エレに所属している、エレを続けるということは、エレのためにバイトをしてお金を稼ぎ、後期はエレのためになるべく5限は入れずに練習に行くことを求められます。そこまでしてみんながエレにかけているからこそ、私が就活をするため岩岳の選手を辞退するとなったときには多くの意見をもらいました。エレから一步距離をとり、冷静に客観視すると就活を優先することは当たり前であり、今でもその決断は間違っていなかったと思っています。しかし、エレという組織に属している限り「岩岳優勝」という目標には縛られることとなります。言い方を変えると、「エレらしい」活動が「岩岳

優勝」には必要ということです。そのマインドを多くの部員が持っており、自身もそのマインドを共有しているため、「エレらしくない」副部長になっていたことを反省します。先輩方や同期、特に部長には大変なご迷惑をおかけしました。

個人としての SPUR は、今年から弟子を持つようになりました。正直、師匠二人はやりづらかったけど、ふみかだったからギリセーフみたいなのもありました。おそらくふみかは大不満(笑)人づてに不満を耳にするのは悲しいから、直接言ってね(笑)弟子の二人は覚えが早く、毎度毎度の成長がとてもハッピーな気持ちにさせてくれました。二人はおそらく今年の結果には不満足なはずで、その悔しさをいつまで持っていられるかで、自分の成長に対する意欲は変わってきます。一年だけの師弟だけど、他の部員よりは若干臍負めで、これからも機会があれば一緒に滑りましょう。

総じて今年のエレでの活動は「D:授業科目の到達目標全体として合格となる最低限の学修成果より少し低い結果であった。」ということです。今年までも棒に振っては、気持ちよく社会人になれません。エレで優勝したことがない人生となってしまいます。今年は新体制のエレにお邪魔することになりますが、強いマインドをもって頑張ります。

浅野晃平

簡単にですが、最後の SPUR を書きました。

3 年目はトレ部としてこのサークルに関わりました。1 年も前のことなので、何してたか忘れてしまったことが多いんですけど、他の強豪サークルはオフに何をしているんだろうって、信州やスガスキー、エーデルワイス、モンブラン、スノーパンサーなどの HP や Twitter を常に漁ってたことは今でも覚えています。通常トレからインライン技術選に至るまで、僕のやりたいようにやらせてもらい、面倒な仕事を全部やってくれた結衣をはじめ、協力してくれた部員の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

師弟で滑ったことは鮮明に覚えています。一緒に師匠をした修平はずっと大人で幾度となく助けられました。ありがとう。最初はお調子者だと思ってたそうたは、ひたむきに頑張る真面目君でイメージと違ってたところに少々驚きました。恵庭住まいの彼を平日 ONZE で見かけたときはちょっぴり泣きそうになってしまったりして。そんな彼の姿をみて、良い師匠にならなきゃって思って。岩岳がなくなってしまったことはすごく残念でしたが、岩岳直前の 2/25 に一緒に滑ったとき、ホントに良い滑りをしてた。相談をしてくれたことも嬉しかったです。どんどんうまくなるって思ってたからスキーから離れてしまうのはちょっとさびしいけど、新しい道に進んでもそうたならきっと大丈夫だと思います。上手くやってくれと思うよ。ずっと応援してます。しょうこちゃんはずっとコソコソ一生懸命な子で、毎日ひたむきにスキーに取り組む頑張り屋さんでした。彼女の姿は僕の 1 年の頃の姿と重ねあっているように見えて、だから痛いほど彼女の気持ちが分かりました。いつも師弟 LINE に動画を挙げてくれて、慕ってくれて、良い結果を出させてあげたいと思いながら、有効なアプローチの方法

をなかなか見つけてあげることができず、師匠としての力不足を痛感しました。すごく申し訳なかったです。でもシーズン中の彼女の頑張りは、ある時ふと報われる瞬間が何かの形で必ずやって来ると思います。遠くからですがその日をずっと待ち望んでいます。

冬を終えて感じた二人の弟子の共通点は繊細でまっすぐなところでした。それは良いところでもあるんですが、人生何でもきっちりできるわけではないので。もう少し気楽に、大雑把になってみると新たな視野がひろがってくるかもって思ったり。当の僕はスキーを初めてから大雑把に生きることができない性格なってしまったので、偉そうなことは言えませんが、、、せつかく北海道にいるんだし、大学生してるんだし、人生の夏休みなんだし、小さな軽い気持ちでもいろんなものに手を出してみたら、やがてそれは大きな経験値になるんじゃないかなって思います。エレという一本の道に花を咲かせることだけが全てではないですし、自分とたえずめぐり合っているその一瞬一瞬の時間を豊かなものにしてほしいです。

この貴重な3年間はあっという間でした。ずっと親身になって僕を支えてくださった先輩方や慕ってくれた後輩たち、お忙しい中ご対応してくださったコーチや顧問の山本先生、用品店の方々、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

石川友貴

エレガントスキー部の3年目執行部として過ごした1年は今までの2年間よりもいろんな思い出があって楽しかったです。ミーティングも毎週あって、いろんな問題も起きたりして、その度に迷惑もおかけしましたが自分にとっては感慨深いものでした。また、共に頑張れる同期や先輩後輩、ご指導くださったコーチの方々、顧問の先生、スキー場の方々等多くの人とかかわりながら部として活動していることも実感できた1年でもありました。目標の岩岳大会は中止となってしまいましたが、エレガントスキー部の活動を通してスキーの技術もそれ以外でも多くのことが得られたのでこの1年間は有意義なものであったと思います。

3年目は岩岳大会に選手として出たい、北海道大会にも出場したいということもあり、一番モチベーションを高く活動できたと思います。執行部として、後輩の手本になるような行動はできていなかったと思いますが、スキーへのモチベーションはこの代の執行部の一員として見せつけたかなと思っています。後輩がそのモチベーションを引き継いでくれるかは別の問題ですが…。

来年は部活を引退してスキーは嗜む程度にしようと思います。と、岩岳が開催されていたら思っていたのですが、岩岳個人戦出場せずにエレガントスキー部を引退する

のは個人的には残尿感があって気持ち悪いので、忙しい研究室に配属されてしまった訳ですが、あまり参加できない状態でも許してくれるのならば選手として続けたいと思っています。

個人的に選手にこだわってやっている(た)のですが、エレガントスキー部の僕たちの代の目的は人間的成長だったので、全然選手として大会に出ていなくても部の活動を通して自分が少しでもなにかスキー以外でも得られたものがあればそれは部に入った意味があったと思っています。選手として大会に出るのはたまたま選考会の時にスキーが上手かった人であって、その人がサポートを見下したり、人に迷惑をかけたり等々知能の低いことをしているようであれば、部としての目的に沿えなかった悲しき人になってしまうと思います。あくまで趣味の範囲なら、スキーの技術など少しマウントを取れる程度で重要なことではないと思います。スキーは成長の手段です。そういう意味では、僕自身もっと成長していかなければいけないと思っています。3年目の間でさえもいろんなことで迷惑をかけていたので、4年目があるのならば、その活動で成長できれば良いと思っています。また、少しでも後輩を成長させることができれば4年目の活動を続けた意味があったと考えられると思います。

またこの1年でもまた自分が成長するチャンスはあると思います。そのチャンスを逃さないよう部の活動も研究室の活動も進取果敢に取り組みたいと思います。

伊藤結衣

ついに3回目の SUPR を書くところまでやってきました。通常だったら感慨深いなあとか頑張ってきたなあとか感じるものなのではないでしょうか。今は活動がないのでエレとの距離が離れすぎて、執行部の頃のエレの記憶がまったく戻ってきません。加えて岩岳もなかったので自分は本当にエレにいたのか、という具合にまでなってきました。とりあえず執行部だった1年間、思い出せる部分の振り返りをします。

オフシーズン：トレ部でした。いやこれはすごく大変でした。仕事が多いですね。週3回のトレと行事などの準備で忙しかったです。(メニューも考えてくれていた浅野くんの前ではこんなこと言えませんが、、、)でも頑張ったと思います。トレを仕切ったり下級生に教えたりする機会が多くて、少し自信がついた部分もありました。私が1、2年の時は女子の先輩がインラインを教えたりする姿はほとんど見なかったので、その点では自分は少し自分のことを認めてあげてもいいのかなと思いました。トレ部としての責任感もあったと思うのですが、練習しなきゃと思うことができ、河

川敷たくさん行ってよかったな、女子トレで練習してよかったなと思う機会が多かったです。しかしサマースキー大会では他大の女子選手がインライン上手すぎて惨敗しました。これもいい刺激になりました。北海道の中である程度練習しても、外に出てみたら全然なんですね。これは岩岳でも同じことが言えると思います。

シーズン中：弟子を持ちました。二人とも私とは違ってよくしゃべるタイプでした。さらにペアを組んだ師匠も騒がしいタイプだったので、ガヤガヤ師弟になりました。おかげで公式練のリフトは楽しかったです。特に歩子さんは、とても練習熱心の負けず嫌いでもどんどん上手くなって、すごいなあとずっとと思ってました。12月末に怪我しちゃった時は、1年の時に札予で怪我した自分と、時期も状況も重なりすぎて心が痛かったです。ただ新人戦選考会までにはしっかり復帰してて、これも私と同じですね笑。師匠と弟子がここまで似るなんて思ってもなかったです。可愛い弟子でした笑。もうひとりお世話になった人はペアの師匠ですかね、たぶん。色々な面でムカついてガミガミ言ってたんですが、いつもスルーしてふざけた人です。ただスキーに関しては上手くて学ぶことも多く、とても頼りになったと思います。

選考会は去年同様、またスタート1番でした。何なんですかね。本当に。本当のはじめの、バーンがわからない状態で上にまだ男子も女子も待っていて、下あんまり見えないし、びびりの私はメンタルが終わってしまいます。滑ってるときの記憶はいつもないです。だからスキーの記憶より、こういうことばっか思い出しちゃうんですね。来年はしっかりお参りに行こうと思っています。

シーズン中は、トレ部の仕事はなくなって落ち着きましたけど、災いだらけのシーズンでしたね。雪がなすぎました。永遠に初期オーズが続くせいで練習も不便でしたし、何よりMの議題が増え続けて、とても大変な代だったと思います。部長は就活もあって大変そうでした、私たちをまとめてくれて本当に尊敬してます。日をまたいだMをした時もあった気がします。なんでこんなに話しているんだ、はよ終われ〜と思ってました。女子Mもなんだかんだたくさんすることになりました笑。びっくりするぐらい数々の問題が起こりましたね。未緒と文香には本当に感謝してもしきれません。忙しいし疲れているのに、真剣にいつも話し合いをしてくれました。考えることが嫌になってパンクしそうな時でもいつも一緒に乗り越えられたのかなと思います。本当にありがとうございました。M以外でも団体練では本当にお世話になりました。今年はすごく支えてもらった部分が多くて、とても頼れる存在でした。未緒もあの時期忙しかったのに、ずっと滑ってくれてありがとう。リフトの上で睡眠をとってましたね。文香とは自由の構成を考えまくりました。これは、代々ずーっと変わっていない女子自由の構成を変えてやるという一大革新だったと思います笑。やってやりましたね！我ながらカッコいい構成だったと思います。団体規定が中止になって落ち込んでたのも、忘れられるくらいでした。ありがとう。

というところで、シーズン中はとても成長を感じられました。ずるドンのこぶから進化して、3年目でようやく回しっぽくなりましたし、団体もトップで滑るの2回目での余裕も少し生まれ、とりあえず色々大変だったけど、今年は岩岳でいい結果残せるぞーという、ととてもやる気に満ちたシーズンだったんです。なので岩岳大会中止の連絡が来たときは、ショックすぎて頭の中が真っ白になりました。今まで頑張ってきた全てのことはいったい何だったんだろう、、、って感じですよ。雪不足で山頂開催になって個人種目も減って、規定がなくなって、自分が執行部の年に何でって思ったけど、でもまだ大会に出られるのなら許す、って思っていました。でも結局雪不足じゃなくてコロナで全部中止、もう最悪でした、悔しすぎました。以降、スキーのことを考えるのが嫌で、なるべく他のことをして気を紛らわしてないと岩岳まで頑張った記憶がすぐに戻ってきてしまって苦しかったです。なるべくエレのことは考えず、研究室など別のこととして過ごしていたら、シーズンも終わってしまい、こんな時期になりました。

1、2年の時の岩岳は悔しい結果ばかりで、3年目は結局、何も結果が残らず、正直もう嫌になりそうではあったんですけど、こんなに嫌なもの、死ぬほど腹が立ったもの、たぶんそれだけ真剣にエレに今まで取り組んだから起こる感情なのかなと思っています。あとは、3年間、特に執行部だった1年間は大変なことも多いけど、同期のみんなと過ごす時間も多くて楽しく過ごさせてもらいました。同期からは、スキーの技術面で学ぶことがたくさんあって、しかもスキーの練習をする姿勢に関しても、どの他の代よりも尊敬できる人たちばかりでした、自分がこの代にいられて良かったと心から思います。また来シーズンも一緒に滑ってください。ありがとうございました。

伊藤竜之助

新型コロナウイルスの影響で、執行部として迎えた今年のシーズンは岩岳も朝里もないという残酷な結果に終わりました。SPUR でコロナを悔やんでも仕方がないので、執行部としての1年間を振り返ろうと思います。自分は登山部兼デザイン部兼タクシーとして活動してきました。他の同期と比べて楽な立場であり、本来はもっと大変な部署を助けなければいけなかったのだと思いますが、あまり役に立てず申し訳なく思っています。

無意根登山は昨年度の地震の影響で、経験者が執行部の半分と4年生のみでしたが、2日とも無事行うことができました。今年は執行部の車の数が多かったのですが、それでも足りず、4年生のカーオーナーの方にもご協力いただきました。ありがとうございました。

デザイン部では、ワッペンとパーカーを作成しました。スキーバンドはどうしたんだという声が動機からチラホラ聞こえてきましたが、まあそこは目をつぶってください。デザインは人によって好き嫌いが分かれると思いますが、みんな公式練や合宿で来てくれていたのでホッとしました。ワッペンは信州大が去年の岩岳でつけていて、対抗するために作ったのですが、結局全国にお披露目することなく終わってしまい、残念です。すぐ取れるという苦情が相次ぎましたが、マスキングテープで仮止めしてあて布をして30秒ほど低温のアイロンを当てればちゃんとくっつくはずですのでつける人は参考にしてください。

今シーズンは弟子も持ち、教えられる側から教える側になりました。今までは自分の理論や練習法が間違っているだけでも自分が上達できないだけでしたが、今年は下級生にも影響してしまうため、昨シーズンよりも何倍も考えて滑っていました。その甲斐もあり、初期オーンズでは滑りに行くたびに何かしら収穫することができ、昨シーズンとは違った感覚で滑ることができました。しかし年明け以降は札幌予選前の練習で腰をケガしてしまい、個人戦選考会も棒に振り、一気にどん底に突き落とされました。これが執行部の代でなかったら完全に意気消沈していたと思いますが、執行部としての仕事がたくさんあり、1年生を教えるという立場でもあったため、落ち込む余裕もなくスキーを続けることができました。

最後になりますが、エレでの3年間で本当にたくさんの方々にお世話になり、スキー技術だけではなく人間としても成長することができました。本当にありがとうございました。

榎本将聖

SPURを書くのも最後の年になりました。
現役最後の年だったかもしれないのに、暖冬&コロナに邪魔をされて不完全燃焼です。
せっかくの機会なので、一年の頃から振り返っていきたいと思います。

1年目

1度しかない大学生活のお供にスキー部を選びました。これは健康診断の日に修平と話していなかったら、エレのBOXに行っていなかったらしていなかった選択だと思います。そして、その選択はきっと間違っただけではないと思います。エレの本気で優勝を目指してストイックに努力する雰囲気は自分に合っていました。信号班での日々は中々痛快なものでしたが、今となっては良い思い出です。成績としては満足できるものではなかったことを覚えています。それ以上に入ったころよりも上手くなれている自分、スキーが分かるようになってきている自分

を実感できて嬉しく思っていました。岩岳新人、朝里新人では森田、中島の下位互換だったので、2年目では絶対にやり返すと燃えていました。

2年目

1年目の頃よりも少し頑張りました。1年目はエレのお金は全て親から借りていましたが、2年目はちゃんとバイトをしました。実習、テスト、バイトとの両立はやばすぎましたが、なんとかできました。スキーの成績では、満足いく結果を初めて出せました。喜びすぎて同期からは嫌われましたが…。師匠として選んだゆうたろうさんの教え方が肌に合っていたのだと思います。選手として出た岩岳大会では再び優勝を逃してしまいました。個人の成績は実力から考えると出来過ぎたものでした。ただ、自分はチームの優勝のために何かしたかという点、全くしておらず、自分の行動次第でこの結果は変えられたのではないかと後悔しました。

3年目

執行部をする年目になりました。僕たちの代は典型的なスキー馬鹿が数多くいるのが特徴です。今年の運営にもその色が存分に出せたと思います。オフでは団体考察やインライン、外部コーチのトレーニングや理論講習会やエレグラフィックなど、シーズン中では、コメントボックスや早くからのコーチ渉外など、様々な新しいことに取り組みました。同期がやる気があると一緒に努力する甲斐があるし、色々なことに手を出せますね。優勝を目標に必要なことを考えて、数とやる気でごり押しして、そんな脳筋な雰囲気は居心地が良く楽しいものでした。しかし、今年はたくさんの災いが起こりました。最初は雪不足、最後はコロナによる岩岳中止です。これだけやってきてその成果を確かめられることなく終わったのがとても悲しいです。今年こそは絶対に優勝できていたと思っています。

3年目になったので師匠をすることになりました。1年生の師匠をすることになり、BJは確定枠で決まっていた。自分の教え方とぶつかったら嫌だったのでペアではなく一人でやりたいと言い、紆余曲折あって、BJ、まいまい、雪絵ちゃんの師匠となりました。1年生の中でトップの弟子達を持つことになって変なことを教えてはいけなく、ちゃんと全員伸ばさなければいけないとプレッシャーを感じていました。伸ばせなかったら…渋い思いをさせてしまったら…と不安でした。僕はちゃんとした師匠になれていたでしょうか。僕でよかったと思ってきているならとても嬉しいです。しょうせいさんダメだったな ~って思ってたらごめんなさい。来年は良い師匠を選んでください笑。ハプニングにまみれた師弟でしたが、真摯に練習に取り組んでくれてとても楽しい日々でした！ありがとうございました！

個人の成績では伸び悩んでしまいました。基礎スキーの上達は階段を登るようなものではなく、迷路をひたすら迷っているようなものだと感じました。進んでいるのか戻っているのか分からないまま同じ道を何度もぐるぐるして、、、ずっと左手で壁をさわって進んだらいつかゴールに着くよ、とか分かれ道に来たときは左を選ぶだとか、そんな宗教のようなヒントを元に攻略していかなければなりません。今年にはひたすら迷っているだけの年でした。停滞しているうちに他の同期はたくさん成長したので、ボロ負けの年でした。隙を見せたらすぐに序列が入れ替わるのはこの代の良いところですね。スティックに努力をし続けてきたときやかとけい、エンドウに抜かされたのは悔しくもありましたが、それと同時に嬉しくもありました。

来年も今のところはスキーを続けるつもりでいます。(大会に出れるか否かは研究室次第ではありますが…。)来年はもっと自分のために、もっと自由に滑りたいです。今年は練習やエレの活動が自分の中で義務になってしまっていてとても苦しかったです。全然エレを楽しめません

でした。1年通して問題だらけで本当に疲れ果ててしまいました。他のことにも手を出しつつ、まったりと続けていこうと思います。

最後になりますが、エレでの3年間の活動を通して、忙しい時間の合間を縫ってエレに指導しに来てくださったコーチの方々、たくさんスキーを教えてくださいました先輩、師匠をしていただいた荒島さん、奈津子さん、ゆうたろうさん、フォルクルコーチの中川さん、競い合ってくれた同期達、一緒に滑ってくれた後輩たちに感謝して僕のSPURを締めたいと思います。3年間たくさんの経験と思い出をありがとうございました！すごく楽しくて色鮮やかな3年間でした！

遠藤大斗

もう4年になって2か月が経とうとしてますが研究室に行ってるわけでもないので実感が湧かないですね。

学生である期間も少なくなり年を取ったなと感じることも多くなってきてしまいました。

去年書いたSPURを見て、目標が道予出場と個人戦選手になることだったので何とか達成できたって感じですね。いろいろと成長できた年でもあり不甲斐なさが目立つ年でもあったかなと思います。

オフシーズンに関して、ただ走ったり筋トレをするのがあまり好きではないので、運動をしながら体力、筋力がつくであろうことをしようと思いロードバイクを買っていろいろなところに行けてよかったです。何かしら目標がないとモチベーションが上がらないと思い大会にも出たりしました。インラインに関しては2年の時よりは数が減りましたが体を動かさないよりはいいしできない動きがあるなら動けるようにしたほうがスキーをやるならいいと思っています。いろいろと試してたりできたと思います。かなり充実したオフシーズンを過ごせたかなと思っています。

シーズンに関して、行ったことのない中山峠でシーズンインでき、2年の時にシーズン初日にブルークしかできなかったのを思い出しながらまたあんなふうだったらいやだなと思いながら滑ってました。

今年は弟子を持つことになり自分があまりにも感覚で滑っていて理論が構築されておらず、教えるのがかなり下手くそだと思いました。そんな中でも話は聞いてくれていた？と思うのでよかったですかなという感じです。似たような癖をしていてそれを考えることになったおかげで自分も成長できたと思っています。兄弟師匠の竜之介も一緒に滑ってくれてありがとう。

選考会は思っていた以上に点数が出てくれて3年の札予まではあまり満足いかない結果だったのでかなりうれしかったです。やっと初めてコブでこけなかった大会になりました。去年劣化版、強化版とか書いてたのであえて書きますけど強化版になりました(道予に出られてたら確実に劣化版になってました)。去年選考会落ちしていながら自分がAチになるとは思ってなかったのだから責任が重いと感じ覚悟が必要だと思いました。がそれでも団体練はつらかったです、迷惑かけまくったし一生やりたくないです。

道予は忘れもしません。あのジャイアント大回りとかいう種目がかなり嫌いになりました。変な踏み方をして板が外れた瞬間すべてがスローモーションになって板外しちゃった、やらかした、これはこけないといけないやつだ、めっちゃ点数下がるじゃんと思ってからこけたとこまでしっかり覚えてます。動画見返すと観客の声が素材みたくなくて自分以外の誰かだったらもっと面白かったんですけどね、なんで自分なんですかね。来年はリベンジしたいと思ってるんですが卒論提出期限直前で計画性のない自分にとっては厳しいのかなと思ってます。岩岳がなくなった瞬間も忘れられません。壮行会は茶番でした。3年目のこの代で優勝して引退するつもりでしたが続けるという選択肢が生まれてしまいまだ思案中です。来シーズンはいろいろなスキー場に行ってみたいし技術の幅を広くするためにもいろんな滑りを経験してみたいと思います。

最後になりましたが一緒に滑ってくれたコーチ、OB、先輩、後輩、その他の方々にはお世話になりました、ありがとうございました
そして迷惑をかなりかけたけど一緒にいてくれた同期のみんなには感謝しかないです、本当にありがとうございました。

大野雅史

とうとう入部してから三年が経ち、この SPUR を書くのもこれで三回目です。執行部として活動をした一年間を振り返りたいと思います。

僕たちが一年と二年の時と優勝を逃して去年の大会が終わった時には次こそは、という気持ちが強かったです。執行部として部を運営する立場となり、優勝のためという気持ちのもと活動してきたが自分も少しは運営に貢献できたと思います。そうして一年間過ごしてきて、いよいよ岩岳大会に臨むだけだったのですが今年は残念ながら大会自体が中止になってしまいました。もともと今年は雪不足で大会が開催されるのか怪しいところではあったのですがそれに加えてコロナウイルスの流行によって止めが刺されてしまいました。大会での優勝を目標としてこれまで活動してきたので中止になったことを知った時は信じられませんでした。今年の二月時期は日程が大きく変わり思っているような練習が出来ない中でも練習をしてきてその成果を発揮する場面が無くなってしまったことが悔やまれます。また大会での自分の成績もそうですが、今年のエレガントスキー部がどれだけの成績を残せるのかを知りたかったなと感じます。ただこの一年間、優勝に向かって取り組んできたのは今振り返ってみれば

ば充実していたと思います。何か一つのことに向かって突き進める機会というのはそうそうないと思うので。

執行部として活動した一年間でしたが今年は師匠もさせて頂きました。二年生を三人持つ事となり、最初はとても不安でしたが毎回の公式練を弟子たちのおかげで楽しく行うことが出来ました。弟子たちが上手くなっていくのを見ていて自分ももっと頑張らなければと思い練習に取り組みました。僕の考え方は理論派に見せかけた感覚派なので正直分かりにくかったのではないかと思います、ごめんなさい。それでも付いてきてくれた弟子には感謝しています。

最後に、これまで三年間エレガントスキー部に所属して活動してきた良かったなと思います。ただそれは同期や先輩、後輩、コーチの方々のお蔭で特に同期の存在が大きいです。当たり前のように毎日滑る人たちが周りにいてそれに触発されて僕も滑りに行きました。こんな環境で無ければこれほど滑ることは無かったと思いますし、上達することも無かったと思います。上手くなるには結局滑るしかないということをおぼえました。こういうことを言っているのが僕たちの代は脳筋と言われるのでしょうね。ここまで打ち込むことの出来たエレガントスキー部だったからだと思います、ありがとうございました。

北村文香

今年は、去年までとは大きく変わった1年でした。いろいろなことがあり、たくさんのかんことを感じて過ごしたように思います。

まず執行部として、同期にはとても感謝と尊敬の念を抱いています。特に、同期の女子には感謝しかありません。入部当初と比べると半分以下という、少ない人数で女子を引っ張っていくことになりました。しかし、わたしの同期女子はその人数の少なさを感じさせないほど、スキーに対して真剣で頼もしい人たちでした。結衣は本気でエレ女子のことを考えていて、未緒は4年生で忙しい中スキーに向き合っていて、そんな2人にいつも刺激をもらっていました。一緒に岩岳の表彰台に上りたかったね。

次に大きく変わったことといえば、やっぱり弟子をもたせてもらったことです。2人の師匠をさせてもらえて幸せでした。わたしはあまり”先輩”を上手くできなくて、迷惑をかけたことも多かったかもしれません。それでも、2人が上達していくのを見ると嬉しくて、わたしも頑張ろうと思えました。ありがとう。来シーズンも応援しています。

今年のチーム合宿は楽しかったです。身体的にも精神的にも限界だった去年とは違い、今年はホテルのご飯も味がわかるどころか美味しく感じ、楽しい年越しもできました。ほんの少しは練習についていけるようになり、また、可愛い後輩がチームに入ってくれたからかもしれません。しかし去年の合宿で大転倒し、来年は滑れるようになると誓ったびっぷの急斜面は、雪不足でオープンしておらずリベンジは果たせませんでした。残念です。

一方で、大会の成績は振るいませんでした。小樽予選では、はしごした合宿の成果が出せなかった上に、1年目の朝里大会と同じ失敗をしてしまい、しばらく落ち込みました。

気持ちを切り替えて挑んだ個人戦選考会でも、自分の実力不足を感じました。ジャッジの方に「だめだったね」と言われる小回りをしてしまった事と、こぶで自信を持ってスピードを出せなかった事が心残りです。本番を見据えた練習が足りないと、大会のたびに痛感している気がします。

一番思い出深いのは団体です。規定で4人の距離が近づいてきて、団体の中でも各自の滑りができるようになってきたところで、規定の中止が発表されました。ショックでした。今の構成では自由だけで日本女子と勝負できないと考え、ロッジで結衣と構成を練り直しました。今思えば、本気で考えたこの時間が今シーズンで一番楽しかった気がします。作り直した構成で初めて合わせた日は目も当てられないほどばらばらで、何度も足合わせをしました。なんとか形になってきてからも、1つ直すと別のことができなくなり…。団体では特に悩むことが多かったように思います。先輩に見ていただいたり、自分たちで試行錯誤を繰り返して、壮行会前日の最後の1本は過去一番の滑りになりました。先輩に「今年は団体優勝できるんじゃないか」と言っていただけ、大会がより楽しみになったのを覚えています。それにも関わらず、今年の終わりはあまりにあっけないものでした。この構成、このメンバーで岩岳を迎えたかったなあ。

1年目は怪我、2年目はチーム合宿で腐り、大会では何度も転倒。今まで苦しいシーズンを過ごした分、3年目は笑って終わりたかっただけに、それが叶わずやるせない思いです。

これを書いている今、4年目を選手として活動するかどうかはまだ決められていませんが、どちらにしてもその選択を後悔しないように4年生を過ごしたいと思っています。

最後に、今年もご指導くださったコーチや先輩方、一緒に滑ってくれたり、団体練のサポートをしてくれた後輩や同期には本当に感謝しています。ありがとうございました。

後藤雅貴

新年度も始まって、はや5月に突入。とうとう3度目の SPUR を書くことになるとは、とても感慨深い。エレでの活動はとてつもなく忙しいが、3年目は特に大変であった。ただの個人的な日記になりそうではあるが、この1年を振り返っていこう。

自分たちが執行部となりまた学連副会長となって、新年度がスタート。思い返すと、4月は忙しすぎた。授業が19コマ・毎週エレのM&学連M・学連のあいさつ回り・バイト等々、暇な時間がある日は1日もなかった。さらに、引っ越して1人暮らしを始めたばかりで、家の生活環境も整っておらず冷蔵庫も洗濯機もない状態であった。今思うと、なぜあれで生活できていたのか分からない(笑)。体力的にも精神的にもとてもきつかった。その中で、週3のトレも始まり、執行部Mも毎週やって怒涛の毎日過ごす。4月・5月は毎日の生活をひたすら耐えたことしか記憶にない。

そんな地獄の春期間を耐え、6月からはようやく穏やかな日常を過ごせた。しかし、穏やかになっただけでエレや学連関係の仕事は無限に出てきて、真の暇は得られなかった。やっぱり3年生は大変なんだなあと改めて実感した。色々とありながらもだんだんと慣れていき、夏休みも終了。10月からあっという間にシーズンに突入した。

シーズンインして、スキーに集中…といきたかったところであるが、当時はそんなところではなかった。自分にとって年に1度の大事な仕事、合同合宿の仕事が待っていた。膨大な量の事務作業や連絡などやるべきことは無数にあり、ただただ必死にこなした。おかげで、実際のところシーズン初期に関して言うと、もっと練習しないといけないと思ってはいてもあまりスキーに行くことができなかった。仕事を必死にこなし、とうとう合宿当日を迎えた。合宿では、ハプニングも多数起こり大変であった記憶しかない。自分もビンゴカードを買い忘れるというまさかのハプニングを引き起こし、役員補佐のみなさんにとてつもなく迷惑をかけた。あの時迷惑かけて本当にすみませんでした…。(この件についてはしっかりと後輩に引き継ぎましたので、安心してください)ハプニングを起こしつつも無事に合宿を終えた時はほっとした。これで役目は果たしたという達成感と充実感でいっぱいであった。

年も明けて早々に札幌予選・そして個人戦選考会。変に良い結果を出してやろうという高望みはせずに自分が練習してきた成果を発揮しようという気持ちで臨んだ。そして結果は、もう少しで道予出場・岩岳選手に少し届かないというなんとも微妙な結果で悔しかった。あと、もう少し点が良かったら選手なのにというどうしようもない気

持ちでいっぱいになった。特に、選考会ではあのグリーンコブの脱レーンさえなければという惜しみがどうしても出てしまう。その後からは、正直モチベーションが下がったのは事実である。朝里大会に向けてという気持ちの切り換えもすぐにはできず、2月の春休み時期に入ってようやくできたと思う。2月時期ではモチベーションが下がってしまったが、執行部として恥ずかしくない行動をすること、なにより後輩への指導のためにも腐らずにスキーを頑張ったと思う。

そこから岩岳ではサポートに尽力して優勝をすることを願っていたが、急に消滅（笑）。朝里大会も消滅。中止発表が来た後の3年Mは面白いぐらいにみんな気がくっついてた（笑）。朝里大会の中止が決まって以降はもう振り返ることがない。

1年振り返るとこんな感じだろうか。これだけ長くなってしまったが、それほど3年生は内容が濃かったということだろう。2年目はスキーではうまくいかず存分に渋い年であったが、この3年目でも大会などで誇れるような結果を出すことができなかったのが非常に残念だ。ただ、2年目と違うのは、自己満足ではあるがスキーが上達したと言えることだ。自分は上達が遅い方だったので、3年間思うようにいかないことが多く苦しいことばかりであった。正直、スキーをあきらめようかと思ったこともあったが、周りの同期や先輩・後輩のおかげもあってここまでやってこることができた。3年間頑張ってきた意味があったのではないかと思う。この3年目は、気持ちを改めて前の2年間よりスキーにひたむきに取り組むことができた。それには、執行部としての自覚・なにより同期のおかげでもある。特に、師匠のペアであったげ○には、常に刺激をもらったので非常に感謝している。（高額でプロテインを買わせてきたこともあったが（笑））

こんな風に思い返してみると、色々な人がいたからこそエレを続けてこることができたし、あきらめずに努力できたということに気づかされた。スキーというスポーツは残酷で、練習した分だけ結果が出るというわけでもなく、むしろ壁にぶち当たることの方が多い気がする。それでもあきらめずに努力し続けることで人間として成長できるのではないかと思う。これは苦しいながらもエレを続けてきて分かったことの1つだ。だからこそ、後輩のみなさんに伝えたいのは、エレは楽しいことだけでなくつらいことも多いが、あきらめないで頑張ってもらいたい。エレは人間的に成長できる環境がそろっている場所だと思います。

さて、自分の今後について、選手としての活動はせず隠居するが、何かしら協力できたらと思う。ただ、スキーは少しだけでも続けていきたい。もし、バーンの隅で横滑りとかしてても温かい目で見てください（笑）。

最後に、3年間お世話になった先輩方・師匠・弟子・学連・コーチ・同期・後輩には心から感謝したい。ありがとうございました！

佐藤修平

執行部として部を引っ張っていく立場となつての 1 年間は、その身を投じていた間は学業とエレと学連と、色々なことに振り回されて忙しかったと言わざるを得ません。他の執行部のメンバーに比べたら楽なもんだとどやされてしまうのは確かですし、ミーティングでの発言も少なかつたですが、運営に関わり、後輩に教えられることは教えてそこそこの務めは果たせたんじゃないかな〜っと思ってます。岩岳と朝里がなくなつてしまつて締まらない終わり方になってしまいましたが、指導して下さつた先輩方、ついてきてくれた後輩、おのおの頑張つていた同期のみんなにお疲れさまと感謝の気持ちを伝えたいと思います。

昨シーズンは怪我でみんなより一足早いシーズンの終わりを迎えてしまったので、今年は同期の中では技術的に劣つた状態でのスタートだと覚悟していました。グレステンでみんなより多くこけてた時点でそれをはっきりと自覚しました。まあ、だからといって人一倍努力してうまくなつて見返してやろうなんて性質でもないし、それをひどく気にしてふさぎ込んだり落ち込んだりする性格でもないのつらい気持ちになることはありませんでした（笑）。だからといって努力を怠るようなことはできません、なんてつたつて弟子をもつのですから。エレの中で決してうまい方ではない自分ですが、それでも弟子にとっては自分のスキーの手本となる人です。少しでもきれいなフォームを見せられるように、それを弟子 2 人が再現できるような分かりやすい説明をできるように自分なりに工夫しました。公式練は案外回数が少なく、その時間に教えられることは非常に限られているからです。実際に一緒に滑つた回数は数字としてはそこまで多いわけではないと思いますが、今シーズン最も一緒に滑つたのは師弟の班です。いろいろな要因でスキーにあんまり行けてない師匠で申し訳なかつたけど、ずっとついてきてくれて本当にありがとう。俺が好きなように二人もスキーを一層好きになつてくれたなら本望です。

選手としてスキーをする大学生で最後の年に愛着の湧く二人の弟子と滑ることができたのは、貴重な経験で今後望んでも二度とできないことなのだと思うと、今までの思い出の中でも 1,2 を争う爽やかで眩しい思い出になりそうです。一方で弟子の二人に限らず懸命に練習してきた選手のみんなが目標としていた大会がコロナのせいになつてしまつたことに対するやるせなさ、むなしさがこみ上げてきます。特に今年に懸けていた人、来年はもうない人はくすぶつた気持ちの行き場もなくなつてしまふと思います。ですが、現にコロナの影響で命を落としている人もいる状況ではこうす

るしかなかったのだと思います。朝里大会の開催を議論した際に学連役員として開催する側の気持ちも分かったからです。おそらくコロナは歴史の教科書に載るような出来事でしょうし、仕方ないと割り切って遠い将来、サークルの人と会ったときに思い出話にできることを祈りましょう。

現役部員としてのエレガントスキー部での活動はもうしないのですが、こうして振り返ってみると、毎年いろんなことをして楽しかったなと思います。合宿も大会も日ごろの活動もサークル外での活動も、なにかと心に残る出来事があって、あの楽しさをもう一度味わいたいと思っても同じものは二度と体験できない。そう考えると無性に寂しくなりますね(笑)。これを読む人がどれくらいいるかわかりませんが、今の楽しさをかみしめて今後もエレの活動に参加したり、仲間といろんなことをしたりしていい思い出を増やしてってください。ただ、怪我すると仲間と一緒に時間がめちゃくちゃ減るので、そこは本当に気を付けてください！(笑)

新川未緒

3年目4年生を執行部として続けると決めた時、私は1つの決意をしました。それは、「自分で決めたことに責任を持つ」ということです。卒論や院試の直前にもミーティングがあること、2月の国試は藻岩時期の真只中であること、全部分かった上で、私は自分でエレを続けることを選びました。だから「絶対に、スキーを勉強の言い訳にしちゃいけないし、勉強をスキーの言い訳にしちゃいけない」と1年間思い続けました。でも実際、そんな凄い人間にはなれなくて、周りの人たちに助けられて何とかやりきることができた1年でした。

執行部としての初めての大きな行事はキロロのコブ練でした。1つの行事のために何度も話し合いをして、計画書を作って、役割分担をして…。全て終わった時の達成感は大きかったですが、「1年間これを続けるのか」と途方もない気持ちになった気がします。そうして始まった執行部ですが、全員で力を合わせて、何とか岩岳手前まで部員を連れていくことができて良かったです。同期は癖の強い人が多くて(他人のこと言えないけど笑)、ぶつかることも多くて、でもスキーへの情熱はどの代よりも強かったし、優勝への思いも負けてなかったと思います。そんな同期といると楽しいし、皆で何時間もミーティングするのも「早く帰りたいー」と思いながら、嫌ではなかったです。欲張りにも全部をやりたがった私を受け入れて、応援してくれて本当にありがとう。

同期の中でも、3人になってしまった女子の結衣と文香には特に感謝しています。春からずっと、人数の少ないエレ女子が総合優勝するために本気で考えて行動して、団体優勝のため

に必死で練習して、2人がいてくれたから最後まで戦い抜くことができました。国試会場から北長沼に向かう車で新しい自由の手合わせが送られてきて、覚えて来いって言われたときには本当に驚いた笑。でも2人の優勝への思いがすごく嬉しくて、あの団体演技を岩岳に持っていけなかったことが一番悔しいです。初めての団体で1人同期と離れてAチに入って付いてきてくれたひかりも、ありがとう。もっとサポートしようと思っていたのに、今年は自分のことで一杯になってしまって、ひかりの明るさと前向きさに私の方がいつも助けられていました。

初めての弟子もできました。豊岡は驚くほどスキー場において、「弟子には負けられない」と思っているうちに私も滑走日数を重ねることができました。康祐は動画を分析して送ってくれるのが嬉しくて、他人の動画を見る習慣がなかった私には、弟子にコメントするために何度も動画をみるのがとても勉強になりました。ペアで師匠をやったので気負いすぎることもなく、公式練は教えるのも教わるのも楽しかったです。師匠が2人でよく喋るから、毎回頭をパンクさせてしまっでごめんなさい。来シーズンも2人が沢山練習して上手くなるのを楽しみにしています。

最後に個人として、今シーズンは3年間で一番滑りを変えることができました。チームで体系的に教わり技術を磨けたこと、エレでコーチに教わり滑りの幅を広げられたこと、共に練習してくれる仲間がいたこと、執行部という立場で上達するために必死になったこと、多くのことが噛み合ってきた結果だと思えます。教えて下さったコーチ、先輩方、一緒に滑ってくれた同期、後輩の皆さん、本当にありがとうございました。

来シーズンは、3年間エレで育ててもらい1年間支え続けてもらった恩返しとして、少しでも部や仲間へ貢献していきたいと思っています。最後までよろしくお願いします。

鈴木良育

もう最後のSPURを書く学年になったのかと思うと感慨深いものがありますね。

去年は執行部として駆け抜けた一年でした。世の中にはいろいろな人がいるという事を改めて実感した一年でした。

昨シーズンでは初めて弟子を持ちました。自分の考えを言葉にする難しさを痛感しました。難しい事ばかり言ってしまったし、ひねくれた事ばかり教えてしまったけど、最後までついてきてくれてありがたかったです。今後の活躍を応援しています。今年はどうのようにエレに関わっていくかはまだ決めてませんが、四年目としてできることをやっていこうと思っています。

最後に、今まで関わってくださった全ての皆さんに感謝を申し上げて締めたいと思います。

「ありがとうございました」

高橋玄

今シーズンは今までのシーズンで1番感情が揺さぶられ突き動かされるものであった。エモイというやつである。

執行部が始まったときは、部の目的がスキー技術向上の楽しみを共有するということになっていたが、心の中ではやはり選考会に通って岩岳出場することがどうしても気にかかっていた。

そんななか、夏休みにドバイでスキーをして見知らぬアラブ人達から歓声をもらってから、スキー技術の向上を改めて実感し、それに伴ってエレに対する考え方が変わってきた。

今年はスキーに打ち込める最後の年になるかもしれないなかったので、今年度にできるだけ上手くなっておきたいと強く思うようになった。これほどまでにスキーに打ち込んで技術を高められる期間はこの先の人生では間違いなく無いと思ったからである。そう思ってから、今シーズンはスキー上達につながるチャンス全てに一つずつ挑戦することができたように思う。プロテインの普及やウェイトトレーニング、デモ合宿の単身突入や年末の超ハードスケジュールの強行など、いろいろやってみた。今では懐かしい思い出である。本当の意味でスキー上達が目的になった気がした。今年度は今までのシーズンよりもさらに滑り込み、よく考えたように思う。

しかし、なかなか変わらない自分の滑りにもどかしさも感じていた。努力に対して必ずしも結果がついてこないというのはもはやスキーではあるあるである。そんな状況下でも、週六で滑り込むメンタルと体力はエレで備わっていたので苦ではなかった。努力の結果だろうか、前年度に通過することができなかった札幌予選を通過してぎりぎり全道大会に進出できたときは本当に嬉しかった。オガサカチームの道大会練では諸岡と共にコーチにコテンパンにされて激萎えしたが、その後の全道大会はまさにお祭りであった。

嬉しいこともある一方で、選考会では個人団体補欠選手になり、とてもとても悔しい思いをした。スキー技術向上を目的にしたとはいえ悔しいものは悔しいのである。応援してくれた人に申し訳なく、不甲斐ない自分に腹が立った。悔しさを引きずりつつも、選手として出る可能性があるため、モチベーション高く保って滑り込むのはなかなかしんどかった。そんなある日、同期が骨折をし、繰り上がりで自分が岩岳個人団体権を得た。うれしいのか悲しいのかなんなのか、正直この数日の出来事はインパクトが強すぎて、どういう気持ちになればいいのかわからなかった。とても悶々として悩ましかった記憶がある。部の総合優勝を考えたとき、団体権をしんじに託するのが妥当だと思った。この選択がまた来年に生きてくれるといいなと思う。団体を託した分、個人に全力で集中しようとして心に決めた。部の総合優勝を第一に考えてスムーズに考えて行動できた自分に成長を感じ、ちょっと感動した。(一部ガヤがうるさいが笑)

そこから連日の強化練地獄がはじまった。団体をしんじがやる以上、団体選手に比べて時間のある自分は少しでもスキーを上達させて成績を残してエレの優勝に貢献しなければならぬという人一倍強い重圧が常に付きまとっていた。今までの滑りではダメだと頭では分かりながらも、目に見える上達というのはなかなか現れず、それがさらに焦りを呼ぶ。それを振り払うようにさらにながむしゃらに日々練習を繰り返す。ときには9時~21時スキーというバカな日程もあった。しかしなかなか成果が出ない。体力的、精神的にも疲弊しながらも、この負の連鎖にしばらく耐え忍んでいたわけで、これはまさしく去年の諸岡が見たスキーの闇というものであった。岩岳が近づいたころようやく目に見える変化が現れ、長沼時期の終わりとともにこの闇も終わった。このような日々を超えて、ようやくたどりついた壮行会(出発1日前!)、そこには疲れ果てながらもどことなく自身を感じさせる部員たちがいた。選手としての意気込みを語り、今年こそは優勝するぞと士気を高めあった。

さて岩岳出発準備をしなければ、と焦って家に着いたころには岩岳大会はなくなっていましたとさ。。

という1年でした！

今となっては笑い話ですが、中止になった時の虚無感は半端なかったです。いきなり全財産を失ったような感覚。今までの一喜一憂はなんだったんだっけ？何を目指してたんだっけ？と狐につままれた感じになりました。部誌の最終号を壮行会の写真で飾っていたときは本当に悲しくなりましたね…。

まあでも、今まで皆で苦しみながらも頑張ってきたことだけは確かなので、中止の悲しみよりも、やってきた達成感、満足感の方がはるかに大きいと感じられるくらいには成長したのかなと思います。結果よりも過程というのはこういうことなんだと思います。

あともう少し思ったことをぐだぐだ書かせてください。

チームについて

今年度はオガサカチームと関わることがとても多かったです。オガサカチームにはデモスキーヤーだけでなく、スキーを作っている人や自衛官、農家さんなどなど、色んな職業の色んな人がいてとても多様性が高かったように思います。スキーを続けてなければ今頃高級車を何台も買ってたなどと話す人もいました。それだけお金と時間と労力を吸われるスキーなのに、これだけの多様性を「スキーが好き」で維持しているのだから、やはりそれだけの魅力があるのだなと思いました。

中学生から年配の方まで所属していて、とても活気があるチームです。とてもお世話になりました。ありがとうございました。

弟子について

今年は初めて自分が師匠となり弟子を持ちました。自分をばかみたいにスキーに行かせたのは弟子の存在も大きかったと思います。男子師匠というきつい環境の中で、みちかちゃんは良くついてきてくれたと思います。しょういちの吸収が早く、物怖じせず果敢に斜面に攻めていき順調にうまくなりました。選考会では、初心者から初めて経験者と競うほどに上達し、今後に期待です。公式練の時間はどれも楽しかったです。二人ともありがとう。まっちゃんも。

師匠の最大の仕事は弟子に高いスキーモチベをつなぐことだとずっと思っていました。スキーモチベをつなぐためには、師匠の自分が人一倍スキーに行く姿を見せることが重要だと思います。こう思うようになったのは今までの僕の師匠や執行部がそのような姿勢でスキーに対して取り組んでいたからです。弟子が高いスキーモチベをつないでくれたのなら師匠としては大成功だと思います。あともう一つわかったことは、「しぶさ」に立ち向かい、戦い、耐え続けるとやがてそれは自分の「しぶとさ」に変わるということです笑。これはたぶんスキーに限らずこれから先生きていく上で直面するいろいろなことに通用するんじゃないかと勝手に思っています。是非ともしぶとさを身につけてもらいたいです。

3年目にしようやくいろんな人に迷惑をかけながらスキーができていたんだということを知りました。仕事をテキパキとこなす有能な同期や、共に滑ってくれる先輩・後輩、研究室よりもスキーに行くのを許してくれた先生・アルバイト先の店長や社員さん、家に泊めてくれた人、北大インターナショナルハウス、などなど数え始めたらきりがなさそうです。特に高本さんには本当にお世話になりました。行く先々の合宿で雨を降らせて申し訳ありませんでした。

うまくいったことやいかなかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、悔しさに涙を呑んだこと、しほみを感じたことなどなど、上手くなるために見て考えて嫉妬してそれでも滑ってものがき続けた日々は今思えばとても充実して幸せなものだったと感じています。正直来年以降この充実感を味わうことができないかもしれないと思うもの凄くさみしいです。

エレガントスキー部には本気になれる環境と部員、歴史があるのが強みだと思います。人それぞれ部に対しては色んな思いがあると思いますが、僕は感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの活躍に期待しています。

最後になりましたが、昨年度も多くのご指導を頂いたコーチの方々や OB・OG さん、そして一緒に活動してきた部員の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

本多敦

早いもので、3 度目の SPUR を書く時がやってきました。

執行部の一員として過ごしたこの一年を振り返ると、大変だった記憶ばかりが思い起こされます。1、2 年生の頃には見えていなかったこと、気付かなかったことが多くあり、先輩方は凄かったのだと何度も思い知らされました。そんな中で強く感じたのが、「周囲の人たちの支え」です。エレという団体が多くの人の好意や応援の上に成り立っていること、また、自分も周囲の支えがあってようやく立つことのできている未熟な存在であることを痛感しました。特に、精神的に苦しかった時期に相談に乗ってくれ、励まし、時には喝を入れてくれた同期や先輩方の存在が無ければこうして SPUR を書くことも無かったのではないかと思います。支えてくれる人への感謝を忘れず、自分もまた誰かを支えられるような人間になること。そんな教訓を得ることのできた一年でした。

もちろん辛かったことばかりではなく、うれしかったことや楽しかったことも多々ありました。昨シーズン最も印象に残っていることは師匠として弟子を持ったこと、そして弟子がのびのびと成長してくれたことです。個人としてはあまり結果の残せなかった自分にとって、弟子の存在は何度もスキーに対する熱を奮い立たせてくれました。弟子の成功は自分のことのようにうれしかったです。ときには弟子を困らせることもあったかもしれませんが、もう一人の師匠の力も借りて何とか師匠をやり通せたのではないかと思います。ただ、弟子の成長は、何より本人たちのスキーに対する真摯な向き合い方とひたむきな努力によるものが大きかったと思っています。自分には本当に優秀すぎる弟子でした。これからもそういった気持ちを大事にして頑張ってください。

4 年生となる今シーズンはエレとの関わりが少なくなると思いますので、皆さんの活動を陰ながら応援しようと思います。大会が中止になった昨シーズンの鬱憤を晴らす活躍を期待しております。

森田一平

今シーズンを振り返ってみると、非常に辛いシーズンだった。

絶対道予決勝に残るという目標の下、スタートした今シーズン。とにかくスキー場に通い詰めた。雪不足のために幅が狭く氷のようなバーンを提供してくるオーズに週5で通った。1人でルスツに行って1日中クローチングを組んだり、日にちが空くのは良くないと2時間だけ国際に滑りに行ったりした。思い返せば、相当な覚悟と熱意を持って滑っていたと思う。時には転んでウェアのパンツが切れてしまったり、コブで滑走面に傷が入ったりしたこともあったが、どれも些細な事だと割り切ってとにかく滑った。

その結果が実ったのか各大会では成績がついてきた。札幌予選を通過し、選考会では2位に。道予選もこの調子でいけば、決勝に残れるかもしれない、岩岳でスーパーシードもとれるかもしれないと期待を抱いていた。

しかし、終わりは突然やってくる。道予1週間前にルスツで転倒して骨が折れた。この瞬間、自分の今シーズンは終了し入院生活がはじまった。入院生活のことについてとやかく言うつもりはないが、とにかく辛かった。1か月間、痛みのせいでまともに眠ることができず、痛み止めの副作用で食べることもままならなかった。体力的にも精神的にも追い込まれて体は衰弱した。

そして、何よりスキーができないという事実が自分を苦しめた。今シーズンは順調に進んできたから猶更悔しい。まるでゴールまであと1歩のところまで落ちて穴に落ちるような感覚。悔しさや怒りが頭の中で暴れ、涙が落ちた。今までの努力が無に還り、滑ってる感覚、自信が崩れ落ちた。なんとか自分の成績を振り返り勇気づけようと思うが、何も残していないことに気づく。師匠として、今シーズンの公式練に出たのはたった半分。弟子の滑りを心配していた自分はいっつか消え、気づけば弟子に足の具合を心配されるようになった。果たして自分が何者なのか、何者だったのかもわからなくなった。せめて、エレの人間でありたいと考え、仕事を引き受けたり北長沼に団体練を見に行ったりしたが自分が「スキーをしている人」ではなく「スキーをしていた人」であったことを認識しただけで絶望の淵から抜け出すことはできなかった。

そんな中で突如中止になった岩岳。嬉しかった。しかし、自分は不注意で起こした怪我、エレの人たちはコロナという不可抗力によって岩岳に出れない訳で状況が全く違う。つくづく自分がクズな人間だと再認識し、再び絶望が目の前を覆った。

さて、今この文章を読んでいるそこのあなた。同情しましたよね？可哀想とか思いましたよね？思ってくれたら嬉しいです。見事に騙されているので笑

実際、怪我はめちゃくちゃ面白かった笑。CT やレントゲンで自分の骨が割とヤバく折れているのを見たときはヤバくてめっちゃ笑ったし、札幌までの救急車で2時間尿意と闘ったのは良い思い出。入院初日に足が痛すぎて泣きまわったり、朝5時に突然やってくる採血に怯え

たり、勝手にパンツを脱がされたり、尿管に管を突っ込まれて新鮮な感覚を味わったりと日常生活では決して味わえない経験ができた。

それに、たくさんの方がお見舞いに来てくれて本当に楽しかった。退院してからも自分の世話のために家族が札幌に来てくれたので、3年ぶりに家族で1か月ほど暮らすことができた。足が動かないなら手を動かそうとピアノをはじめてみてドハマリした。ピアノめっちゃくちゃ楽しい。あとコロナで自粛。こっちは元々骨折で自粛だ、なめんな！ってことで自粛も全く苦しくなかった。しかも歩けるようになったタイミングで緊急事態宣言解除。これは運が来ている。だからシーズン辛かったとか嘘！普通に楽しかったし。

で、このバカみたいな spur を雑にまとめると、辛いと思っていることもそんな捉え方次第でどうにもでなるってことっすよ。だから今回の怪我も幾らでも辛いと思えるし、楽しいとも思える。よく怪我とか選考会に落ちたとかフラれたとかでクヨクヨしてる奴見るけど、それをどう捉えるかでどーとでもなるんすよ。悲しみは悲しみとしてラベリングしてるから悲しみであって、そう捉えなければ良いだけの話でしょ？

それに辛い状況ってヤバすぎて逆に楽しいし、あとから振り返ればめっちゃくちゃ笑える。特に辛くて追い込まれた自分の行動に。「助けて欲しい」とLINE をしたり、夕飯食べながらポロポロ勝手に涙が落ちてきたのは後にも先にも入院中ぐらいだ笑

最後になりましたが、中川さんをはじめとするコーチの皆様、OBさん方、エレの皆さん、成績は残せませんでした。が来期こそ怪我せず頑張るって滑りますので今後ともよろしくお願ひ致します。多分このままじゃ死んでも死に切れません。また、主治医の佐藤先生やリハビリの岩部先生、自分の競技復帰のためにご尽力頂きありがとうございます。そして、お見舞いに来てくれたり励ましのメッセージをくれた皆さん、ありがとうございました。本当に支えになりました。あ、同期忘れてた。コロナのせいで岩岳無くなって悔しいけど、そのおかげで俺と同じ4年目続行という頭の悪い決断をしてくれた人がいたので嬉しいです。執行部の中で一番自由奔放にやってた自分をなんだかんだ温かい目で見えてくれて助かりました。来シーズンもよろしくお願ひします。では。

諸岡航太郎

SPUR を書くのはこれで3回目になる。2回目(2年生の一年の振り返り)の時も書く内容が多かった一年だったが、今年はさらに大変な一年だった。

今年のシーズンは雪不足から始まりコロナウイルスで終わるとい、ついていないことこの上ない年であったがどちらもどうしようもない問題である。正直執行部として仕事をしたかというあまりしていない気がする。他の4年生とは趣向の異なる SPUR にする。やはり冬期のスキーシーズンが非常に濃かった。のでシーズンのことについて振り返っていく。

昨年度も選手として岩岳に参加させていただいたのだが、今年の順位もギリギリで、今年も客観的に滑りを評価すると全く余裕はなかった。なので昨シーズンと同等以上の練習量が求められていた。そのうえ3年生になって教える立場となり、自分のことだけ考えていけばよいというわけにはいかない。過去に、未熟な自分を丁寧にご指導してくださった先輩方にならい、自分もその恩を下の代を育てることによって返す責務があった。とは言ってもあまりネガティブな要素ではなく、基礎を見直すいい機会だったし、何より弟子の存在は自分が練習する大きなモチベーションの一つとなっていた。ちなみに弟子2人とも練習量・センス共に素晴らしく成長が早いので、自分の技量的に嬉しい悲鳴を常にあげていた。自分の練習と弟子の練習を考えるのは個人的には大変ではあったが、最後まで充実したシーズンを過ごすことができた。

ここでG.Tとの因縁について少し触れておく。最初の1年生の頃は確かに自分が追いつき、追い抜くべき対象として、G.Tを一種の目の敵のように考えて練習に精を出していた。しかし、1年目、2年目の大会成績等で自分の方が勝っていると確証を得てしまったので、2年目のシーズンが終わった段階ではもはや気にも留めない存在となっていた。しかし、あろうことか、G.Tは3年目にして自分と同じオガサカ学生メイトに乱入してきた。しかも自分がメイトリーダーをやるとほざく始末。(当然却下。)再び深い関わりを持つようになってしまった。G.Tはある日に取ったタイム計測の結果を1年中引き合いに出す器の小ささを持っているが、その鬱陶しさをバネに、自分はより一層練習に気合を入れていた。結局G.Tを焚きつけ役としてうまく利用できているから、結果的にはマイナス要素ではない。

さらに、自分もG.Tも来シーズンもオガサカ学生メイトを継続するのだからこの関わりはまだ途絶えなさそう。またスキーするのが楽しみである。

最後に、合宿や強化練で丁寧にご指導してくださったコーチの方々、お忙しい中ご協力いただいた先輩方、一緒に滑ってくれた同期、そして何より、拙い公式練の中熱心に練習をしてくれた2人の弟子及び一緒に考えてくれた敦、様々なものを得ることができました。ありがとうございました。そして、少しでも下の代に伝えられたことがあれば幸いです。

<三年目>

石毛奈央

最近緊急事態にも体が適応しきってしまい、毎日スキーをしていたのが夢みたいな日々を過ごしています。でも、SPURということで振り返ります。

昨シーズンは反省しかありません。例にない雪不足でそもそも行ける日数が限られている中で、平日も疲労がたまってオーンズにいけず去年と比にならない滑走日数でした。自分の中でシーズンに入ったという気持ちの切り替えが出来ていないままシーズン初期があつという間に過

ぎてしまい、同期の女子は私以外チームに入っている中でさらに努力していて本当に情けなかったです。

全く自分の中で滑りの整理が出来ていないまま小樽予選を迎え、8人中6位でなぜか入賞の賞状を頂きました。もう一生スキーで賞状をもらえないと思うので大事に取っておきたいと思います。その後は個人戦選考会。これが今シーズン最後の、自分の滑りに得点をつけていただける機会でした。本当に、悔しくて情けなくて、虚無感というか、もうここらへんでやめます。つらくて、でも団体メンバーとして選んでいただきこれ以上周りに迷惑かけられないし、貢献したいし藻岩時期(一回も藻岩にはいきませんでした)はできることを頑張ったつもりです。団体練習は迷惑ばかりかけたと思います。Bチは同期だけだったので思ったことをすぐいえるし、逆に言ってもらえるし4人で本番迎えたかったです。たくさん迷惑をかけたけど楽しかったです。団体やりたかった。岩岳行きたかった。

来シーズンは、執行部としても今までの集大成となるように、SPURに反省としてこんなに情けないことばかり書かず、楽しかったと一言で終えられるようなシーズンにします。

石原颯馬(第54代副部長)

今年は本当にいろいろあった年だった。まず、学業についても今年はいろいろ考えて自分の学習への取り組み方を改めて検討しなおした。スキーは楽しいがそれだけではだめで、学生の本分である学業にももっと真剣に取り組もうと思った。また、スキーにももちろん真剣に取り組んで上手くなろうと頑張ったが、全然うまくならなかった。正直、1年の初めのうちはみるみる上達していたと思う。しかし、そこからはずっと平行線で一切うまくならない。はっきり言って出オチだとみんなが感じていると思う。自分でも思う。出オチと言われたいように来年こそは絶対にもうまくなりたい。もちろん賢くもなりたい。最後に、今年のコロナウイルスに苦しんでいる(苦しんでいた)みなさん、来年は楽しく過ごせたらいいですね。

伊保内将太

岩岳が無くなった後の自分は数日間墮落していました。こんな形で二年目が終わってしまったと思うと悔しくてならなかったからです。せっかく練習した団体も消え、練習に費やした時間と費用が水の泡となってしまったことを考えるととても正気ではいられませんでした。団体は自分がエレガントスキー部に入るきっかけでもあり、3年目は多分就活で出れないのでもしかしたら最後の大会となるかもしれなかったので出れないショックは大きかったです。せっかく2年目で掴めた岩岳への切符。。。

とかなり落ち込んでいるようですが今はさすがにもう吹っ切れました。全日本も無くなり、オリンピックまでも無くなり、残念な結果に終わってしまった人は自分だけではないのです。そう思うと自分だけ落ち込んでる訳にもいかず、スキーやバイトを再開したり就活も始めました。

今年は執行部ですが就活があり、エレに関われる機会は少ないと思いますが、スキーへの情熱はまだ残っているのでできる限り参加したいです。スケジュールが確定していないのでどこまでの行事に参加できるかは未定ですが、あわよくば NAKE を抜いて同期内 2 位を確保したいと考えています！次シーズンの SPUR は綺麗なターン弧を描きたいですね。

Time to play / Art of turn / Sons of Blast

薄井浩生

エレガントスキー部に入部して 3 年が経過し、ついに僕たちの代も執行部になりました。無事に 3 年目まで続けることが出来た理由は、このサークルで非常に充実した大学生活を送れているからだと思います。今度は、自分達がそういう場所を作る役目を担っていると考えると不安な点もありますが一生懸命、楽しくやっついこうと思いますので、この 1 年間よろしく願います！

まず、昨シーズンを振り返ろうと思います。シーズン前半は滑りが分からなくなって迷走していました。大回りはある程度納得できる滑りになりましたが、札予でコケて爆死しました。選考会もコブで暴走して、満足しない結果となってしまいました。このあたりで不調期に入りました。後になって考えてみるとこの時期のスランプがスキーのことを深く考えるきっかけになって、後に技術向上することが出来たと思っています。道予選までの期間で師匠に必死に教えてもらい(特にコブ、小回り)、目標だった道予選決勝に進むことが出来ました。その後の藻岩時期でも、道予選で自分の課題を見つけてしっかり取り組めたので、かなりいい練習になりました。結果、壮行会前日までかなり仕上がりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、岩岳、朝里がなくなってしまったので、練習の成果を発揮することはできませんでした。

また、団体の方は持ち前のおつむの悪さが出てしまい、規定の方はまだ耐えていましたが、自由の方では特に迷惑をかけてしまいました。練習では毎回脳をフル回転させて参加していたのですが、それでも分からない部分が多々あったのでリフトの上で先輩方や、NAKE によく相談していました。そんな中でも、優しく答えてくださったメンバーの方々には本当に感謝しています。おかげさまでこちらも壮行会前日には何とか仕上がって良かったです。ペ〇も兄さんに関しては、来年は途中離脱しないで下さいね！

といった感じのシーズンでした。(以上)

来シーズンは集大成なので今までやってきたことを本番でぶつけて、いい結果残して終わりたいです。また、師匠になるので自分のことだけではなく弟子のことも考えてあげられる師になれるよう努めます。

最後に、今年はコロナウイルスの影響もありこれからの活動がどうなっていくのか自分でも分かりませんが2年連続岩岳大会開催中止にならないことを前提として、やれることは全部やってみようと思います。僕を見ていて下さい。

目標！

道予選 決勝(50位以内)

岩岳 個人入賞(ワンチャン) 団体優勝

朝里 入賞

大野愛佳(第54代副部長)

今シーズンは1番に目標にしていた岩岳大会も無くなってしまい、‘結果’というものさしでは振り返る題材はあまりないのですが、‘スキーに向き合う姿勢’に関しては学ぶことができました。色々あるのですが、大きなものは以下の2つです。

①考えてスキーをすればそれは必ず次に繋がる

1本1本必ずテーマや目指すかたちを決めて滑ってはいいても、まだ本格的にスキーを始めてやっと2年、初めから上手くいくことの方が少なく当然です。上手くいけばそれを自分のものにしていけば良いですが、そうでなくても上手くいかない理由を考えて次に進むきっかけになるのでOK、と考えて練習していました。結果、調子が上がらない時も脳死して滑ることはなく、1本1本大切に滑ることができたかなと思います。

②大会へ臨む心構え「後悔しない」

日々の練習で得たり感じたりしたことはスキーノートに記してあるので、それを基に本番の滑りの方針を種目ごとに細かく立てました。方針を立てるときの基準は「後悔しない」ただこれだけにして、過去の練習で自分が考えてきたことに嘘はつかないように心掛けました。本番はそれに沿って滑るだけなので、かなり落ち着いて滑ることができたと思います。大会を終えてから、ここはこうした方が良かったのかな、といった改善点に気づくことはありますが、これも収穫だなと思ってメモに残し、次に繋げるようにしました。

スキーノートをマメに取って持ち歩きたい派の私には、この2つが特に合っていました。他の人からしたら、当たり前、というようなことなのかもしれませんが、今年になってこの積み重ねに助けられたことが多く、大切さを実感しました。来年も継続していこうと思います。

そしてまた、とても濃い師弟関係の中で過ごしたシーズンでもありました。師匠のナカジさんは部長や就活で忙しい中、公式練以外にも動画にたくさんコメントをしたり一緒に滑ったりしてくださって、本当に助けられました。いつも丁寧で的確で、今シーズンの滑りの基盤になりました。とても追いつけそうにありませんが、来シーズンは自分もそんな師匠または先輩になれるように頑張ります。しまやすも、一緒に兄弟弟子ができて、楽しかったです。他の人からは、3人で何喋るの？とよく聞かれますが、穏やかな中に意外と会話もある、あの雰囲気をととても気に入っていました。

最後に、今シーズンも沢山の方に支えられてスキーに打ち込むことができ、さらには道大会記念出場、団体練、後輩に教える機会 etc...様々な初めての経験もすることができました。支えてくださった全ての方に心から感謝しています。

次のシーズンは副部長としての責任もある中で過ごすこととなります。気づけばもう3年目、部を引っ張っていく立場として自分は何をすべきなのか、考えながら日々エレに関わっていこうと思います。今年度もよろしくお願いします。

奥山誉礼

自分のなかで思い返すほどでもない一年でしたが、この一年どのようなことを思っていたのかを記します。ちょうど一年前、今同様に提出期限に急かされながら書いていたことを鮮明に覚えています。たいして内容の濃い文章は書けないだろうなと思いつつも、つらつらと書いていました。しかし、シーズンでの不甲斐なさ、来シーズンへの意気込み、そういうなにか溢れ出てくるものがありました。そんな決意をもって過ごした昨シーズン。果たして結果は残せたのだろうか。

本当になにもできなかった。

オフシーズンでは、自力で資金をまかなうためにバイトをすごく頑張りました。そんな忙しいバイトと勉強の両立も頑張りました。シーズンを万全に迎えるためにオフトレも頑張りました。スキーのためにこれほど費やしてきたのに、なにも結果を残せられなかった自分を、本当に、本当に不甲斐なく思っています。シーズン中、多少は技術が上達して、楽しかった部分もありましたが、シーズン終盤は、何のために練習しているのだろう、と彷徨うことも多々あったし、挙句の果てには、もしスキーをしてなかったら、、と考えることもありました。

しかし、彷徨っていたなかでも、これまでやってこられたのはVチームのお陰でもあります。昨シーズン、Vチームに入って本当に良かったと思っています。とてもうまい先輩方に囲まれて、少しでもうまくなってやろうと思ったり、シーズンを通して、中川さんに非常に手厚く教えていた

だいたり、目標を見失ってはいましたが、最後までスキーに対するモチベーションをなんとか維持できました。時にはコーチが怖くて、プレッシャーに押しつぶされそうになった時もありましたが、良くも悪くもいい刺激になっていました。それだからこそ、昨シーズンの結果を悔やんでも悔やみきれません。

ただ、こうやって SPUR を書いていて、なにがいけなかったのかを考えたときに、もっとこうすればよかったなとすぐに思い当たる節がありません。去年の SPUR とは違い、具体的に来シーズンはもっとこうしようと思いつかないのが本音です。去年の自分の頑張りをただ否定したくないだけかもしれません。

さて、この3年目は、エレガントスキー部部員としての大きな境目だと思っています。これまでやってきたスキーを、今年でやめるかもしれないし、来年、再来年、はたまたずっとやり続けるかもしれない。ここまで頑張り続けてきた2年間を無駄にしないためにも、今シーズンは最後の年、と考えて自分にプレッシャーを与え続けていこうかなと思います。そして、ともにやり合ってきた同期皆で最初で最後の最高の歴史を作れたらと思います。

加納啓行

今回のシーズンは雪不足やコロナのせいで、やりきれなかったことが多いシーズンになってしまった。新2年生になっての今回のシーズンは滑りの矯正から始めた。前シーズンでは、腰が内側に落ちてしまうことが多かったので、正しいポジションをシーズン初期に探した。その結果もあり、1月に入るところには滑りがずいぶん変わった。そして迎えた札予、個人戦選考会では割と良い結果を残すことができた。その後の大会は北海道予選だったが、今回はオープン参加だったので出場はできなかった(来年はしたい)。バーン下で出場した同期の滑りを見て感動した。2月の練習は藻岩ではなかったので楽しかった反面、毎回リフト券を買う出費や、1日券を買ったのに午前中で帰ることが多かったのもったいないと思うこともあった。そして迎えた岩岳大会だったが、ほぼ雪がなく運営も連絡がおそく、残念な状況だった。本州のチームは移動に時間がかからないからいいとしても北海道勢はかなり前から出発すること忘れないでほしい。出発の準備をして壮行会もして、レンタカー屋で手続きし、車に乗る直前に中止メールが来た時はかなりショックだった。ショック過ぎてそこからのことはあまり覚えていない。来シーズンは研究室や卒業発表のせいで岩岳大会は出れない可能性が高いが、ほかの大会にはできるだけ参加していきたい。

黒田京佑

今シーズンは一言でいうと楽しかった、というかシーズン終わってから書くまでに期間が空いたので楽しい曖昧な記憶しか残っていないのですが書き起こしていこうと思います。

まずはオフシーズンから。シーズン終わりからのモチベを維持したまま前期の間は自主的に筋トレとかゲリラのインラインとかを頑張れました。去年は痛くて苦痛でしかなくサボっていたインラインに関しては、インラインにインソール入れる&シェル出しをするというかなりの改造のおかげで痛み無く、びっくりするほど楽しくてどんどんできるようになったのがうれしかったです。(個人的にはかなりの革命でした!) これのおかげで他のオフシーズンのトレのモチベが上がりよく河川敷に行くようになったりしてグレスデンに役立った時は嬉しかったです。後期になり師弟が発表された時に最初に感じたのは「これは楽しいシーズンになるぞ」というものでした。師弟トレでは雅史さんのインラインの上手さに「なんじゃこりゃ?!」といつも驚かされたり、ひいひい言いながらワイワイ筋トレしてたりと楽しかったです。

シーズンに入ると去年の目標通り初期からできるだけオーンズに行けました。3年になったら研究室で練習量が減るから今年がスキーに打ち込める最後の年になるというのと、オーンズに行けば師匠がいるっていうのもかなりモチベ上昇につながりました。初期の頃の目標はキロロ検定で1級取って兄弟弟子3人で小樽予選に出る(あわよくば北海道予選進出)という感じでした。初めの2,3週間は後傾、腰外れ、ブレーキ小回りという1年の時の悪い癖がなかなか治らず検定も諦めかけていたのですが、オーンズでひたすら小回りを、国際に行った日はコブを滑りまくったりしたおかげでなんとか1級を取れてうれしかったです。でも良いことがあれば悪いこともあるということでメイン合宿でやってしまいました。段差に気づかず思い切りぶっ飛んでしまい見事にヘルメットが割れてしまいました。「また去年みたいにスキーできなくなるんか…」と思ったのですが奇跡的に左肩以外が驚くほど一切痛みが無く、支障がなくて安心しました。肩が上がらなくても支障が無いなんてスキーぐらいですね笑 そして小樽予選ですが結果はまあお察しの通りですが、去年かなり差を付けられていた半田やほまれに食らいつけるようになってのが初期の上達が感じれてうれしかったです。このままいけば選考会でそれなりに良い結果を狙えるぞと思っていたのですが現実には甘くはなく、特に師匠の雅史さんによく教えていただいた小回りとコブで点数を取れなかったのが本当に辛かった。今シーズンで一番落ち込んだと思う。2月は去年と違い足のケガが無かったおかげでストレス無くスキーだけに楽しく集中して練習できました。何よりも師匠と兄弟弟子がみんな選手として練習を頑張っているというのがいい刺激になりました。なので選考会はダメだったけど朝里大会でがっつりまくるぞと思って練習できました…はずだったのですが憎きコロナのせいで岩岳、朝里大会が無くなってしまい、なんというか絶望とか喪失感というよりも「え?これで今シーズン終わり?」みたいなそんな終わり方でした。2年でやめたり、函館に行ってしまう同期と最後の大会で競い合えなかったのは悲しかったです。3月になると1,2年で滑ることが増え、その時にパッとすぐにアドバイスが出てこなかったのも、あらためて先輩方が一人ずつに適切なアドバイスができるというすごさを感じました。

最後に今シーズンご指導していただいたコーチの方々や先輩方ありがとうございました。そして一緒に楽しく滑ってくれた同期や後輩もありがとうございました。同期からの下手くそイジりは「このままで終わってやれるか!」という感じでなんやかんやでモチベにつながってました笑

そして何よりも師匠の雅史さん、兄弟弟子のしんじとひかりとの師弟トレに始まり公式連で毎週すごく楽しかったです!ありがとうございました!

坂口慎治(第54代部長)

こんにちは、エレガントスキー部第54代部長の坂口です。昨シーズンを振り返った感想をざっくりと書いていきます。

初めに技術面について。昨シーズンは、個人戦出場を目標にしてシーズンに挑みました。結果、目標には届きませんでしたが、ありがたいことに団体メンバーに選んでいただきました。大会は中止になり、練習の成果を発揮することはできませんでしたが、団体練習の経験ができたこと自体が自分にとってすごく経験になったと感じています。来シーズンは部内選考会を勝ち抜き、より充実したシーズンにすることを目標に、この一年を大事に過ごしたいと思います。

次に師弟についてです。まずは一年間お世話になった雅史さんにこの場をお借りしてお礼をいいたいです。ありがとうございました。練習中に自分の滑りを見失い、パニックになっている私に声をかけてくれたり、団体練習では失敗続きの私を励ましてくれたりと、雅史さんには助けられてばかりの一年でした。本当にありがとうございました。また、兄弟弟子の二人も練習熱心で、公式練では毎回良い刺激をもらっていました。ありがとう。

最後に部長として一言ご挨拶させていただきます。本サークルは現在新型コロナウイルスの影響で活動を停止しており、今シーズンは例年通りの活動が難しいと思われれます。ただ、その中でも最大限の注意を払いながら徐々に活動を再開させていくつもりです。関係者の皆様におかれましては、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひします。

以上です。最後まで読んでいただきありがとうございました。

嶋田泰大

さてさて、もう今年で3年目。過去のシーズン、このクソ！スキーめ！今シーズンで縁を切ってやる！なんて思うことが幾度もありましたが、まだ続けようとしています。なんだかんだ、最後にはまた好きになってしまうんですね…

今年はずいぶん師匠をやることになります。やるからには、弟子には上手くなってほしい。あとは、もちろん楽しんでほしいです。私のように、師匠に恵まれたぜい、と思ってもらえるよう頑張ります。

短いので蛇足。

去年、私はシーズン前から退部を考えていました。結構悩んだ末、やめることを表明しました。このあたりのことは、一応文字には起こしたのですが、お蔵入りにします笑。ひとつだけ言うとしたら、自分が好きなことや頑張っていることから誰かが去っていくとすることは、そういう姿を見せられるだけでも結構ショックなことだと思います。ごめんなさい。

結局、心の底ではやめたくなかったのでしょう。(厚かましくも)続けることにしたとき、「結局やるんかい」と笑って受け入れてくれたり、なんか喜んでくれた奴までいて嬉しかったです。他にもやめるみたいなことを言っていた奴がいたのですが、残って良かったです。(みんな、やめるやめる詐欺かよ。) エレは活動が多くてかなり束縛されますが、まあ、それに見合ったものはあるかな、というのが2年間を過ごした私の意見です。

私は基本的に自分本位な人間ですが一まあ、そこは変わらないんですが一少しは自分のことを省みることができるようになった気がします。これが、今年の執行部の方針、「活動を通した人間的なんとやら」ではないでしょうか。(なんかちょっと違う気がする)

それはさておき、私は結局続けることを選びました。決めたなら行けてことで今年は今までにないくらい充実させようと思います。

ほんと蛇足でした。まあ、今シーズンは大会が中止になり、来シーズンに向けて燃えている文章が多いでしょうし、こういう SUPR があってもいいのではないのでしょうか。来年は短く、「よっしゃ超上手くなったぜ！俺も弟子も！」の一文で終わらせようと思います。

反保智之

昨シーズンについて振り返っていろいろと思います。オフシーズンは1年の時とは違って2年ではトレの意味と自分の弱いところを考えながらトレが出来るようになったとは思いますが。ただスキーのことを考える時間もやる量も全然少なかったなと感じています。特にインラインに関してはトレ以外であまりやらず上達出来なかったと思います。

シーズンが始まってからは1級を取得することを目標として練習していました。今シーズンは思う存分スキーが出来る最後のシーズンで、なんとしても1級をとりたかったのでひたすらオーンズに行っていました。結果は不合格でキロロ検定では1級をとることは出来ませんでした。公式練以外でも師匠にたくさん教えていただいたのに結果を出せずとても申し訳なかったです。この後も1級取得を目標として練習していました。

今シーズンで一番大変だったことは一年生を教えることでした。一緒に滑ってくれたのにうまく教えられず申し訳なかったです。自分の練習量とスキーへの理解が改めて足りないなと感じました。

途中けがをしてスキーが出来ないときもありましたが、なんとか最後には1級をとることが出来ました。ここまで振り返ってみると今シーズンはつらいこともたくさんあって、もっとこうしていればなあということがたくさんありました。ですが1年生の時と比べて自分で考えて滑ることが多くなったり、滑りをこうしていきたいというのがはっきりしていた分、よりスキーを楽しめた1年になったのかなと思います。今後どうするかは分かりませんが良い2年間でした。

辻悠希

今シーズンは何も成果が出せなかったシーズンでした。しいて言えば、雪道での馬力がない二駆の運転技術の向上とタイピング速度の向上があげられます。しかし、選考会は家庭の事情で欠席。1級検定も緊張なのか何なのか数回落ちてしまい、朝里大会はコロナで中止、学連としての仕事もままならないまま執行部になってしまいました。まじで来年の朝里の運営が怖いです。みなさんご協力お願いします。

さて、スキー技術について書いていくと、1年生の頃よりははるかにうまくなった気がします。しかしまだまだ下手糞なんです。自分がなぜうまにならないのかと考えたときにいくつかの考えられる原因が上がってきました。

1. 練習量の少なさ。

これは1年生の時の振り返りで思ったことなのですが、今年は練習量を増やすことに成功しました。ですがまだエレのトップ選手たちと比べると練習量が少ないと思います。理由は体力不足ですかね。連日で滑っていると疲労がたまってしまい、滑りに行くのがおっくうになってしまいます。また、スキー場から帰ってきて課題をやる体力も残っていないので課題がたまってしまいます。体力の源は筋肉だという研究成果があるのでオフ期間のうちに筋トレしましょう。

2. メンタルの弱さ。

大会などでメンタルがぶれてしまうのは自分に自信が持てないから。日々の練習でうまくいくという自信がないから。成功するイメージを持てないから。本番では練習以下のパフォーマンスしかできないのが当たり前なのだから本番で頑張ろうと力む必要はない。日々の練習の積み重ねが大事。日々の練習量を多くするには体力が必要。つまり筋肉が必要。また、健全な精神は健全な肉体に宿ると言います。筋トレしましょう。

3. シンプルに肉体のスペックが必要

これは師匠のりょうたろうさんに言われた言葉なのですが、僕がコブに苦戦しているときに、「リズムとかタイミングは完ぺきなんだよなあ。あとは辻の体のスペックの問題かな(笑)」と。まあコブには筋肉が必要でその筋肉が僕には足りなかったんでしょね。筋トレしましょう。

以上のことから筋トレの大切さがわかりました。筋トレします。皆さんも一緒に筋トレしましょう。

最後に、この一年お世話になったコーチの方々、りょうたろうさんや先輩、一緒に滑ってくれた同期と後輩の皆さんに心より感謝申し上げます。来年もよろしくお祈いします。

永井健

北大に入学して気づけばもう3年目、あつという間だった。2年目のシーズンは雪不足やコロナに振り回され、いろいろ思うところはあるようなシーズンだった。そんなシーズンをこのSPURを通して振り返っていきたいと思う。

オフシーズンは正直そんな覚えていない。が、なんだかんだ楽しかった気がする。1年目の頃にできなかったジンプアや無意根登山をしたり、エレのメンバーで過ごす機会が多かったからであると思う。ただ、スキーに対してのモチベーションについては、非常にムラがあった。今年は高いモチベーションを保っていききたい。

シーズンについて、序盤は(自分的には)高い頻度でスキーに行くことができた。自分は他の同期よりも一段と劣っている自覚はあったので、なんとかみんなに追いつけるようにしようと練習していた。だが思うように上達していかず、12月のキロロ検定にも落ち、ネガティブな状態のまま選考会まで進んでしまった。そんな状態で選考会に通るわけがなかった。意外にも、選考会後は謎のスキー意欲が出てきて藻岩時期は頑張れた。雪不足のせいで全員で集まる機会はなく、変則的な日程だったが自分的にはスキーと向き合い、なるべくオーンズに行くようにした(だいすけほどではないが、、、)。1級もなんとかとれた。ただ、うまい同期や先輩と一緒に滑る機会が無かったのは残念だった。

コロナのせいで岩岳大会が中止になったのは結構堪えた。エレの選手が活躍する姿が見られなくなり残念だったし、自分は岩岳幹事として、三好と黒田とともにいろいろ準備してきただけにとてもやるせなくなってしまった。岩岳の中止連絡を知ったのがレンタカー屋で料金を支払った直後だった。もちろん全額返金してもらったが、30万円が手元に戻ってきたとき、なんともいえない感情になったのを覚えている。

ざっと振り返るとこんな感じである。5月現在もおコロナに振り回されて先行きは不透明ではあるが、次の岩岳に向けて頑張っていくというのは変わらない。自分のスキー技術を向上させるという思い、そして執行部としての自覚を持ちながらこの1年間真剣に取り組んでいきたい。

最後に、お世話になったコーチの方々、先輩方、師匠、同期や後輩の皆さん、心より感謝申し上げます。これからもよろしく願いいたします。

西田ひかり

昨年度はシーズンを締める大会がなくなってしまったのでゆるっとシーズンが終わってしまいました。ですのでゆるっと昨シーズンを振り返ってみようと思います。

まず、オフシーズン。1年目のときよりトレとスキーの感覚が結びつく部分も出てきてわりと有意義にすごせたのではないかと思います。インラインは河川敷の坂で転びまくって周りの皆さんに不安な気持ちを与えてしまったことを思い出しました。すみませんでした。

次にシーズン。初期オーンズに通いまくった結果、去年落ちた悔しい1級検定になんとか合格することができました。特にコブは雪不足でスキー場にコブがなく練習量も少なかったですが、コブの滑り方の動画をYouTubeで見まくってなんとかぎりぎり詰めれたのかなと思います。検定当日も練習では1回も1通できなかったのですが、本番は死んでも1通すると思って滑ったのでやりきるとい気持ちって大事だなと感じました。次に、特にシーズンの中でも自分の基盤になったなと感じた年末年始について書こうと思います。メイン合宿3日間から始まり、チーム合宿4日間、樽予錬、樽予、公式錬、、、という感じのスケジュールでした。正直、消化しきれぬのかなとか乗り越えられるのかななどと不安はありましたが、始まってみればすごいスピードで毎日が過ぎていきました。もちろん日が経つにつれ、疲労や自分ができないことに対する不満がたまったりもして結構つらいこともありました。それでも周りの同じように頑張っている人達がいたので励まし合いながら頑張れたのだと思います。これだけ一日中スキーをする日が連続であるスケジュールもなかなかないので心身共により経験になりました。この年末年始がそれ以降の練習の基盤になりました。そして年が明けて成人式やらばたばたしている間に選考会もやってきました。選考会当日も練習一本目で吹っ飛ぶなど不安な要素も多かったですが、本番は自分としてはその時点での割とましな滑りができたのかなと思います。初めての団体練も始まり、練習に新要素が加わりました。最初は距離感など怖かったですが、チームで何かを作っていくという個人競技と違った面白みもあってなかなか楽しかったです。2年目では岩岳もなくなってしまい、仕上げた演技を披露する場がなくなり本当につらかったです。当日、昼寝をして起きたら大会中止のお知らせが来ていました。母に電話して、悔しいのとまだよく分からない気持ちで泣きまくりました。3年目では不完全燃焼で終わることがないようにしたいです。でもそれだけ泣くくらい悔しかったのはそれまで練習を頑張ったからなのだと思います。

最後に、順位などの目標を立てるのは苦手なので数字での目標は立てませんが、岩岳ではエレのポイントを伸ばせるような滑りを、そのほかの大会ではより上の順位をとれるようにします。自分の中ではもう少し具体的に立てます…。そして最後の最後に、師匠の雅史さん、兄弟弟子の二人、コーチの方々、エレの皆さま、チームの皆さま、関わってくれた方々に本当に感謝しています。3年目もよろしくお願ひします。

林大祐

僕のスキーシーズンは個人戦選考会の後から始まった。それまでは、エリートップの憲太郎さんの弟子になれたことで天狗になり、もう負けることはないと楽観的になっていた。薄井、加納と滑っているだけで自然とうまくなれると思っていた。個人戦選考会でボロ負けしたことは悔しかったが、それまでの他人任せの甘い考えをぶち壊してくれたという面ではとても良い経験だったと思う。それからは自分で目標の滑りを決め、自分で練習メニューを探し、自分一人でも練習できる体制を作っていた。(ビデオを撮ってくれる人は必要だが)

誤解しないでほしいが、これは決して憲太郎さんの教え方が悪かったわけではない。自分に教えてもらったことを咀嚼する力がなかったことが原因である。

選手になれなかったことでコーチに教わる機会が減少したが、自分で練習を考える機会が増えた。練習メニューを考える上で参考にしたのがYouTubeだった。YouTubeには初級から上級まで多くのスキー技術解説動画が載っているし、動画を保存しておけばリフトやバスの中でいつでも確認することが出来る。僕は暇さえあればいつも動画を見返していた。このやり方は有効だったので来シーズンも続けていきたい。

もう一つ工夫したのは、自分と同じメーカーの板を履いている人の滑りを目標にすることだ。フィッシャー以外の人でも上手い人は大勢いるが、自分がフィッシャーを履いている限り、フィッシャーの中で上手い人の滑りが、その板に対する自分が目指すべき正解の滑りだと考えた。ちなみにマテリアルチェンジするつもりはない。

以上が僕の2019-2020シーズンの全てである。岩岳は無くなったが、僕のやるべきことは一切変わらなかった。そのためモチベーションを失うことはなく、練習を継続することが出来た。自分が上達するためには自分で練習するしかなく、自分一人でも練習することが出来ると分かせてくれたシーズンだった。

最後に憲太郎さん、薄井、加納、そして僕と一緒にスキーを楽しんでくれたエレのみなさんに感謝の意を表す。

春口菜帆

昨シーズンを振り返ってみると、中身の良し悪しは別で、全体的に内容の濃い一年だったなと思います。今年の春、次の年にかかる費用を概算してみようと思い立ち計算をしてみると驚愕の、今考えればそうでもないのかもしれませんが結構な費用がかかることを知り、そこから焦ってバイトを詰め込みまくりました。こうして始まったオフシーズンにはほぼバイトの思い出しかありません。毎月の目標金額を立てていたのですが、あの頃の楽しみは本当に目標を達成することだったと言っても過言ではないのかもしれませんが。ただ問題だったのは肝心のスキーに対する情熱？特に上達したいという気持ちのようなものがなくなっていたことです。トレもただこなせばいいやという気持ちで、全然真剣にできておらず、自分に滑りについて考えることやインラインやスラッグラインなど自主トレもほとんどしていませんでした。勉強やエレの活動に対してもとりあえず乗り切れればいいかなといった感じで、忙しくこそしていましたが何かずれた本質が見えていない日々を送ってしまっていたと反省しています。

シーズンに入ると初めの方は1級を取るためにまあまあの頻度で滑りに行き、1級を取得するとすぐに合宿が始まりました。年始にあった地区予選の前日、私はインフルエンザにかかり出場することができませんでした。ようやく復活できた…と思ったら数日後に成人式のため帰省、そしてその数日後に選考会がありました。師匠や様々な方に折角教えてもらったことも身に付けられていなかった上に調整もままならず、結果は悔しかったこそすれ納得のいくものでした。思えばシーズン中もオフの姿勢を引きずっていたのだらうと思います。岩岳大会で巻き返したいと思うも、空き日に滑りに行こうと思えず、大会直前には学科の実習も入りどうなっちゃうのだらうと思っていたら大会が中止になってしまいました。完全にスキーに対する気持ちが薄れていた春休み、何度かあったチームの練習では、楽しみながら努力する上手な選手の方々と何度も滑る機会があったことで、なんだかスキーの楽しさが改めて分かったような気がして、もっと上手に滑れるようになりたいと純粋に思うようになりました。

こんな感じで昨シーズンを振り返ってみましたが、今シーズンは純粋にスキーが上手になりたいと思います。とてもアバウトですが、この気持ちを基盤として楽しみながらもオフシーズン中から体を動かして考えて、たくさん成長できる年にしたいです。また執行部として技術部という大事な役職に就くことになったので部員がスキー技術を向上できるようにしっかり役目を果たしていきたいと思います。

最後になりますが、昨シーズンお世話になったコーチ、師匠をはじめとする先輩方、一緒に滑ってくれた同期や後輩の皆さんに感謝申し上げます。来年もよろしく願います。

穂積侑伽

今年度の目標

- ・急斜面に強くなる
- ・スキーを楽しむ
- ・大きな怪我をしない
- ・全てやりきる

と、漠然ではあるが目標を立ててみた。昨年度、目標として怪我しないと宣言した気がするが見事達成できなかった。今年度も怪我するのは目に見えているので大きな怪我をしないことを目標に頑張りたい。

二年目で一番楽しくスキーをしていたのは公式練だ。スパルタ師匠、面白い兄弟弟子と師弟に恵まれよく笑っていた。ずっと出来ない事があると師匠に捨てられるかも！！と思いそれが一種のモチベーションになっていた。また、弟子もよくスキーに行っていたのでそれも刺激になっていた。しかし、楽しみながらスキーをしても技術面では思うように伸びずスキーが嫌になる時期もあった。2月の強化練は何度も同じところを指摘され、正直スキーをしたくなかった。今思うとあの時期は全く成長していなかった。今年度はもったいない時間の使い方をしないように心がける。

また、昨年度はチームに入らせていただきエレの方以外から教えていただく機会も増えた。非常にレベルが高いので今年度はついて行けるようにより一層努力する。

最後に、3年目となり役職にも就いた。一年間逃げずにやりきることをここに決意表明しておく。

三浦裕斗

気づいたら春。つい最近 SPUR を書いた気がするのですが、あっという間ですね。

大学生活に慣れてきたせいか、2年目のオフシーズンはほんとにすぐ終わってしまっていました。今年はオフシーズンのトレからシーズン中に活かせるような意識で行ってきたつもりです。雨でけっこう中止になっちゃったけど。短く感じたのはたぶんそれだけ充実していたってことなのかもしれないですね。バイトも頑張ったなあ。成績が犠牲になったけど。めずらしい経験が出来たのでよしてことにしときましょ。その分冬の貯金が出来てよかったと思います。

シーズンイン。今シーズンも雪が少なくてなかなかオープンしなかったですね。今年は去年よりも本気で取り組もうと思っていて、シーズン初期のオーズから自分なりにたくさん通ったりしました。なかなかそなバーンでした。でもその分、悪い癖などが顕著にでて矯正になったのかもしれないです。今年の師匠は気合いという言葉が好きで、それについていけるように自分も気合いを入れて頑張ったつもりです。公式練楽しかった。この辺で検定受けて1級とれました。横滑りでなぜかマイナスだったけどなんとかセーフです。コブがプラスだったのはちょっと嬉しかった。とりあえず1つ目の関門越えてホッとした気持ちです。メイン合宿も色々なコーチの方から様々な考え方を学ぶことができて、とてもいい刺激になりました。そのあとルスツに泊まったのもなかなかいい経験でした。ちょっとずつだけ滑りが良くなってきている実感も持ててきました。シーズン中盤、もともと足に怪我をしていたのが12月ごろに悪化してそれからスキーに行く頻度がかかり減ってしまいました。正直モチベもかなり低くなって1月はほとんど滑ってなかったです。この時期はいろいろと散々な時期でした。

選考会、全種目でこけちゃいました。最初コブには入らないってことにしてましたが、某先輩に言われて結局出ちゃいました。危ないところだったけど全種目終わって最終的には怪我なしで終わったので結果オーライ(?)です。

かつての藻岩時期がオーズになったのはちょっと嬉しかったけど、コブが全然なくてあまり数をこなせなかったのがちょっと残念なところでした。なんだかんだ藻岩のあの感じもよかった気がしなくもないけど、やっぱりよく考えてみたらもう行きたくないような。この時期から意欲的に滑りに行くようになって、先輩やコーチの方から色々吸収出来たんじゃないかなと思います。思うように体は動かさなかったけど、色々とつかめたものがあつた気がします。

そして岩岳大会の中止。次いで朝里大会も中止。激萎え。3月以降は1回スキー行ったかなくらいです。全然滑っていない。特に1年生ですけど、この間に滑ってる人も結構いたみたいなのでそのモチベに尊敬です。動画みたらみんなうまくなっててびっくりです。

そんなことで今シーズンはなかなか締まりのない終わり方となってしまいましたが、来シーズンからまた気合い入れてやっていきたいです。

三好航平

まず初めに昨シーズン指導してくださったコーチの方々、OBさん、先輩方、1年間ありがとうございます。今シーズンもよろしくお願いいたします。

SPURということで、エレガントスキー部の一員として、また北大生としての2年目を振り返って
いこうかなと思います。

昨シーズンは自分がなぜこの部活に入ったのか、この部活での活動を通じて得られるものは何か、ということを考えることが多かったです。自分は理学療法士、トレーナーとしてスポーツ現場で働くことを目標にしており、大学生活の時間・お金をそっちの勉強に費やしたいという思いがあったのも事実で、正直辞めようかなと考える時期もありました。一方で入部したからにはやり通したいという思いもあり(自分から引き受けてしまった岩岳幹事の仕事もあったし笑)、特にオフシーズンは葛藤がありました。

その中で続けようと思ったのは、言葉では表しにくいエレの居心地というかそういうものがあつたからだと思います。シーズン直前には執行部としての役職も決まり、続ける決心が決まりました。

シーズン中は師匠の悠太さん、兄弟弟子の半田と菜帆のおかげで本当に楽しく過ごすことができました。直接伝えるのはめっちゃくちゃ恥ずかしいけど、とても感謝しています。

スキーの方は、キロロで奇跡的に1級に合格することができましたが、樽予、選考会ともに練習量相応の点数でした。学部の方が忙しかったのも事実ですが、忙しさを言い訳にするのはめっちゃダサいなと最近よく思うので反省します。

エレの1番の目標である岩岳、選考会後から個人的に頑張りたいと思っていた朝里がコロナで中止になったのは流石にショックでした。特にもう1回出ると残ってくださった悠太さん憲太郎さん臣さんと師匠をやってくくださった凌太郎さん、優勝に懸けてきた脳筋ばかりの1個上の先輩方のことを考えると残念でならないです。

今シーズン執行部となり、トレ部を務めさせていただいています。自分から「トレ部やる」と手を挙げたので、責任感を持って取り組んでいこうと思っています。自分らの代で岩岳を制することで先輩方の無念を少しは晴らすことができると思うので、頑張っていこうと思います。

実質ラストイヤー。1年間よろしくお願いいたします

吉田昂平

昨年度 SPUR を書いてからもう一年が経ちました。思い返してみると、この一年過ぎるのが早かったように感じる。オフシーズンはだいたい去年と変わらず、成長というよりは現状維持といった感じになったと思う。オフシーズンに入る前までは体力と柔軟を個人的していくつもりだったが、思い出したようにすることはあっても継続して行うのは難しかった。個人的なことだが、延長の果てに免許を取得できたときが一番の出来事だと思う。

シーズンについては、雪不足には本当に困った。去年も少ないと言われていたがそれ以上に少なかったように感じる。それに関係して藻岩時期は意外と大切なのではないかと思った。藻岩の代わりにオーズに通ったが、滑走時間的にはだいぶ少なくなってしまった。バーンはオーズの方がよいが、何の拘束もなく、朝から晩まで滑るには自分の根性が足りなかったようである。滑りとしては、自分で考えて滑る時間が増えた。去年は教えてもらうだけだったが、もちろん先輩方には教えてもらうことも多かったが、今年はビデオを見て色々試してみることが基本だった。実際変えていくのはなかなか上手いかなかったが、それはそれでその時間も楽しかった。

1級受験のときにはオーズにはコブはなく、全休もなかったのに国際にも行けずほとんどコブの練習ができずに受けることになった。合格はできたが、自分でも落ちると思っていたのでそのあとの樽予の準備をしていなかった。今でも樽予に出とけばよかったと思う。選考会は全然いい結果を残せなかった。ここからは朝里で見返すことを目標にしていたが、コロナのせいで全部だめになった。岩岳大会すらコロナで中止になってしまった。部の目標がなくなるという事態には何とも言えない気持ちにさせられた。コロナの影響で今年岩岳に出られなかった人が、来年岩岳に出てくると思うと怖いものがある。北海道でも緊急事態宣言が出てなかなか滑りに行くことができなかった。解除された後も、レンタカーで数回滑りに行くことはあっても、やっぱり去年と比べても全然滑ることができなかった。このことで、もともと滑れないコブが来年ますます問題になる。エレを続けてきて、コブを滑れないのは話にならないので来年は何とかする。

3年目になってもコロナの影響は続いており、オフシーズンの活動もなかなかできるか怪しい。学部の方では、オンライン授業に伴って課題が多く予想外に忙しい日が続いている。実際サークル活動もあったらちょっとしんどかったと思う。今後としては、新入生が入るかどうかが、活動が行えてないことによる部としての連帯感などは今後の問題になると思う。個人的にも1年目の指導や外部とのやりとりも責任をもって行っていきたいと思う。あと少しでもスキーを上手くなりたい。

最後に、お世話になったコーチの方々、先輩方、師匠の凌太郎さん、一緒に滑ってくれた同期や後輩の皆さんには心より感謝申し上げます。

<二年目>

稲木滉朗

<オフシーズン>

エレの活動は自分の体力の無さに絶望するところから始まった。野球部だったのと、元々体力はある方だったのでそこそこ走れるだろうとイキリ散らしていたら最初の測定会の中距離走、まさかの男女混合で55位(下から9位)。ちょっと危機感を感じた。感じたはいいものの走るのが嫌いなので特に何もしなかった。もちろんトレ合宿はトラウマ。

<シーズン中>

初期オーズめっちゃ怖かった。トラウマ。ただ急なだけでバーンが凍っていたとしても特に恐怖は感じないが、コースの幅が狭いのと降りた後の停止距離の短さと人の溜まり具合が怖かった。一応小回りの成長は感じられたと思う。新人戦選考会はテスト期間と重なったのもあって10日ぶりのスキー&練習滑走2本で挑んだのは今振り返っても馬鹿だと思う。まあ岩岳は別団体での出場予定だったのもあって完全にお遊び気分で選考会も挑んでしまったのもあると思う。その後、コロナが猛威を奮ってイベントがほとんど無くなったのは最早言うまでもないだろう。自分の中ではルスツで受けた一級の検定が唯一のイベントと言ってよい。コブで転ばなければ落ちる気がしなかったので緊張はあまりしなかった。待ち時間が長くて座り込みたくなった。シーズンを通した技術的なことを言うと、エレ内の人ばかり見てると上手くなったなあと思うが、エレ外の人と比べるとあまり上手くなってない気がするなあと思った。来年は井の中の蛙にならないことを意識したい。

今井晃渡

まず、オフシーズンについて振り返る。トレに関しては先輩方がスキーのどの動きに繋がるのかなどをしっかりと説明してくれたため良いトレーニングが出来たと思っている。しかし、ゲリラトレにはほぼ参加しなかったためシーズンのためにオフシーズン期間を十分に活かせていないと感じている。コロナなどで外出やサークル活動が規制されているが室内で出来ることをこなして備えていきたいと思う。また、インラインの感覚から得られることもあったためできれば積極的にインラインをやっていいと感じた。

次にシーズンについてふりかえる。シーズン中は公式練習以外でスキーに行くことがとても少なかった。シーズン終盤には師匠に心配されて連れ出される始末である。課題を言い訳に行かないという状態だったのでしっかり課題を終わらせるようにして行くべきであった。次のシーズンはしっかり課題と両立していきたい。今シーズンはコロナや雪不足により岩岳大会などの大会が無くなるというなんともし理不尽な終わりを迎えた。1年目である僕は大会が無くなったことにより大会形式で滑ったのは新人戦選考会だけとなった。すなわち実戦経験が少ないの

で次のシーズンが不安である。しかし、次のシーズンに僕が大会に出られるかも分からず捕らぬ狸の皮算用であるのでとりあえず自分の滑りを良くすることに注力すべきだと感じた。

総合的に見て大会云々よりも僕の場合は日々のトレーニングや練習を見直していく必要があるように感じた。

勝田隆成

1年を通して満足のいく1年ではなかった。オフシーズンから振り返っていく。

そもそもなぜエレに入ったかというところから高校の部活の先輩が(エレではない)スキー部に入っていてせっかく北海道に残ったんだしスキーでも極めるかと思ってスキー部に入ることを決めた。

入部してすぐにオフトレが始まった。運動系部活は初めてだったので全てが体力的にキツかった。ただ数ヶ月もすればちょっとずつ慣れてきた。オフトレでは年100日もスキー場に行けるように体力を作ると心の中では目標を立ててトレに励んだ。

オフトレではインラインで転けただけで皆さんに多大なご迷惑をおかけしました。本当に申し訳なかったです。

10月くらいからはインラインをかなり練習した。週3回のペースで河川敷に行き同期に差をつけられたかなと考えています。このインラインの成果がスキーに役立ってほしいとただ願うのみです。なぜこんなにインラインをし始めたかというところから単純にスキーが上手になりたいから。それだけだった。シーズンを終えて振り返ってみるとここで練習していたインラインはスキーの使い方ではなかったのではないかと思った。今シーズンオフではスキーにつながるようなインラインの滑りをしてシーズンインから活かしていきたい。それでもインラインはやっていて良かったと思う。この時点で腰外れの話の聞けたり、左右差があることに気づけたりとシーズンで何を解決すべきかが明確にできていたのでよかった。

シーズン前に立てたシーズンの目標は同期で1番になり岩岳で同期から圧倒的な差をつけて勝つこと。誰にも言わなかったけどそんな目標をたてていた。まずは同期に勝ちたい。ただその思いだけがあった。同期に勝って岩岳の新人戦でいい成績に入ればエレの総合優勝にも貢献できると考えたからだ。

シーズンに入ってまず気付かされたのは自分のスキーの技能があまりに低かったことだった。道内の同期の経験者の中でも1番下手なんじゃないかと思った。しかも癖が付きすぎていてそれを直すステップを挟まなければならず同期から遅れをとるのではないかと思い開始一日

目にして期待が不安にかわった。挙げ句の果てに理論まで間違えていた。インラインが思うように行かなかったのは間違えた理論で練習してたからかもしれない。

シーズンインから2週間経った頃スキーが嫌になり始めた。上達している感覚がない。まずは小中高で身につけてた趣味スキー(ファミリースキー)の強すぎる癖をなくし基礎スキーの新しい癖に変える(?)ことに必死だった。今のスキーは先輩のシルエットとはかけ離れた動画で見たくもないスキーだ。しかも同期は経験者が多く置いていかれそうな気がした。ましてや未経験者まで追い越されそうな感じだった(実際に追い越された)。

エレとして集団でいるのが嫌な時もあった。飲み会は嫌いだった。ただただ心をエグられる地獄の時間となり始めた。そもそも絡み方がわからない。なんで上手く会話できないんだろう。そして孤立する。何もできない自分が嫌いだった。時には泣きたくなった。コンパの度にエレを辞めたいと思った。辞めれば親に立て替えてもらったマテリアル代という負債だけが残る。辞めたところでなんのために大学に行っているのかわからなくなる。だから辞められなかった。

飲み会は嫌いだったけど結果として合同合宿に行ってよかったと思う。あれから滑りが変わったと先輩からも言われたり、自分でも実感している。コーチから教わるシーズン初めの数少ない機会だからから来年は1年生に勧めたい。

メイン合宿3日目。前日から雪が降り積もり最高のパウダー日和だった。前々日、前日に同期が怪我で1人づつリタイアしていった。一本目を滑る前、板を履いているときに嫌な予感がした。何か起きるかもしれない。それはすぐに現実になった。アップのフリー滑走で新雪に足を取られて逆ハの字になりビンディングが両方とも外れて転んだ。転んだ瞬間右膝にインラインで経験したような痛みを感じ動けなかった。板が外れるぐらいだからただ事ではないと感じた。骨折か何かしたかなと思った。捻挫した。そしてウェアも少し破けた。少しずつ痛みは治るものの痛かった。そのまま続けられるかなと思ったらリフトで足がぶら下がって痛い。スケーティングもできずひたすらストックで押すしかできなかった。結局その日は講習から離脱した。少なくとも数日はスキーに行けないのは確実である。怪我のせいで練習出来なくなるのが悔しかった。

次の日診断を受けると右靭帯の損傷。靭帯が伸びていた。1週間は少なくともスキーできないと言われた。気づけば2年連続年末年始は不自由な生活を送っている。去年はインフルエンザ、そして今年も故障。病院で始まり病院で終わる。最悪な一年だと思った。メインから1ヶ月以上経ってやっと復帰できた。ただこの時点で新人戦選考会まで残り3日。1か月以上のブランクを戻すには短すぎた。

新人戦選考会が終了した。総滑でまず失敗した。左右の新雪にハマリ速度を上げきれなかった。大回りもうまくいかなかった。股関節と膝を適切に曲げきれず点が出なかった。小回りは上手くいっただと思った。でも全く点数に反映されなかった。上手いじゃんって言う同期にめっちゃくちや腹が立った。僕のことをバカにしてるのか?結果が発表されたあともっとムカついた。男子のビリから3番目。予想はしてたけどいざ順位を知ると自分の無力さに腹が立ってきた。怪

我していたといえ、納得いく順位じゃなかった。怪我するんじゃない。いっそのことここで大怪我してシーズンを棒に振ればよかった。練習ではもっといい滑りできたんだからその滑りができたはず。ただ出来なかった。最悪。納得いく滑りでこの順位が出てしまうならしょうがない。ただそうではないから余計に自分が嫌になった。この順位が続くなら辞める。必ず岩岳で結果を出す。表彰台に絶対乗る。ポイント獲得に貢献できなければ辞める。来年の選考会で必ず出場権を獲得する。絶対に獲得する。

そして岩岳は中止になった。その付近のブログでも書いた気がするが、こうなるならばけががしてもいい勢いで新人戦選考会に臨めばよかったと思ってしまった。

岩岳中止から約2週間後。ルスツ検定で一級にまた落ちた。前の週にばんけいでも受けたが、完全に自分のミスで横滑りを失敗したり、大回りが暴走気味になってしまったこと、合格者が少なかったなどで衝撃は小さかった。今回は違った。2回目、同期がみんな受かった、くだらないミス。イライラしかなかった。また八つ当たりしたくなった。(実際物に当たった。)こんなに下手ならやめたい。本当に下克上できるのか。プラ1もらってもいいやつあったら。どれだけスキーに見放されるのか。本当に向いてないのか。今シーズン中には絶対取りたい。取れないなら辞める。そう思った。気づけばだんだん目標がしょぼくなって。武器なんてもうないし、どうすればいいのか。12月のキロロ検定のプラ1はどこへ行ったのか。どんどん遅れをとっていく。もう嫌だ。そして神様は味方をしてくれることなくコロナを取り巻く情勢がひどくなり検定を開催できるスキー場がなくなった。1級取得ができなくなった瞬間だった。

気づけば自分の滑りを見ることから逃げていた。僕がなぜ上手くならなかったのか、それは自分の滑りを何度も見返さなかったからだった。今見てみると12月ぐらいから滑りに全く成長がなかった。怪我の間公式練にすら行けなかったので改善のための引き出しも少なかった。だから周りから突き放されたのだ。

このシーズンで差をつけられてしまったが、まだ巻き返すことはできると信じているが、それを今から行動に移さないと巻き返せない。オフシーズンでもやれることはある。引き出しを知ることにはできる。コロナのせいで春雪をほとんど滑っていないが、パターンに合わせた対処法を持っている方はいると思うのでいろいろな人から理論を学ぶなどしなければならぬ。インラインもスキーに直結できるように考えて滑らなければならない。自分の現状から逃げたい。現状を受け入れ、限られた滑走時間で何をすればいいのか。来シーズンはそれを考えてながら滑らなければキロロ検定には間に合っても樽予には間に合わない。

20-21シーズンで結果を残せなければ岩岳に一回も出れないまま引退するだろう。そのようなことが無いよう覚悟を持って1年過ごしたい。

後悔しかない1年であった。

20-21シーズンの目標

- ・12月のキロロ検定で1級を必ず取る
- ・個人戦選考会を通過、団体出場
- ・樽予で道予進出

(実際にspur用に使っていた日記を編集して書いた。相当長かったこと、酷いことも書いてあったので削除して載せる。)

加藤康祐

まず、エレには行ってよかったと思います。いい仲間とも出会うことができ充実した一年間を送ることができました。何人かいなくなりましたが、これからも仲良くできるような関係になれたと思います。

去年のオフシーズンは、シーズン中のスキーがイメージしきれなかったため、なにをやっているかよくわからないような時もありましたが、昨シーズンを経験し自分になにが足りていないかというものがわかってきたため、今年オフシーズンのモチベーションにもつながりました。目的をしっかりと持ちオフトレを行っていこうと思います。

去年のシーズン中は思ったようにスキーに行くことができなかったので、今年は滑走日数を増やしつつ、一回ずつの練習の密度を濃くできるように練習の目的をあらかじめ決めてから滑れるようにしようと思います。去年はスキーノートを毎回かいていたのですが、自分の成長の過程がいまいち分かりづらかったので、できないことだけではなくできるようになったことも書き込もうと思います。そこに書いた事が注意されたのであれば、どこかが抜けているということなので、その箇所を基礎から見つめ直したトレーニングをしようと思います。

去年は目標としていた大会がなくなってしまったので、目標達成を確認できませんでした。そのようなことがないためにも、各大会ごとに目標を定め、モチベーションを保ちながらうまくやっ

河野美里

私は北海道に来たからにはスキーがしたいと思っていて、エレのことを知り新歓スキーや説明会に行ってスキーの楽しさやエレの雰囲気の良いさを感じたのと、先輩方のPVのかわよさに惹かれて入部しました。この1年間はエレの活動のおかげで楽しくてあっという間でした。

オフシーズンから振り返ろうと思います。トレや合宿は走ったり筋トレしたりきつと感じることも多く、先輩や同期がこなしているのを見て自分の体力のなさを感じました。ポジションなどスキーにつながる練習は自分にとって新しいことばかりで、バスケなども含めていろいろな運動するのが楽しかったです。ただ、スキーをイメージしながらトレをする意識が足りなかったなと思います。2年目はオフからシーズンを意識してトレに取り組みたいです。

11月にはシーズンも近づいてきて道具も揃え、早く滑りたい、とスキーが楽しみになっていました。シーズン初日の国際で新歓スキーの楽しさを思い出してすぐ、初期オーズのパーンを知り、スキーに対して怖いという気持ちも生まれました。そんな中で私は週に1回の公式練がすごく楽しみでした。スキー初心者で板を履くこともできなかった私に、1から優しく教えてくださった師匠に感謝しています。最初は同じことを教わっていたけど、知らない間にどんどん先を進んでいく兄弟弟子にも刺激をもらいました。1月くらいには勉強を優先してスキー場に行く回数が減ってしまい、同期との差がどんどん広がっていることに焦りを感じていました。気がつくとな新人戦選考会の時期になり、初めて自分の滑りに点数をつけてもらう機会だったのですごく緊張していました。でも師匠にアドバイスをもらい、とりあえず今できることをしようと思って滑りました。総滑が緊張してよく分からないまま終わり、大回りで滑りを意識する余裕が少しできたと思っていましたが、焦って足がとられ、こけてしまいました。滑りきれず悔しくて情けない気持ちと、師匠に申し訳ない気持ちになりました。でもその悔しさと、選考会後に師匠に励ましてもらったことがその後の練習や岩岳大会へのモチベーションにつながりました。2月に入ってからはたくさんスキー場に行って、考えること確かめることをしながら滑ることができたかなと思います。ただシーズンを終えて、自分が思っていたほど上達できていなかったのも、まだまだ練習が足りなかったなと思います。シーズンを通して、師匠だけでなくたくさんの先輩方に基礎的な事から丁寧にスキーを教えてもらいました。言われたことを意識して滑り、少しずつできるようになる感覚が嬉しかったです。と同時に、いつも同じことを言われてしまい、なかなか上手いかわからないことが多くて難しさも感じました。一緒に滑ってアドバイスをくれる同期にはいつも、自分ももっと頑張らないと、と思わされました。スキー場に行けば先輩も同期もいて、常に教えてもらったり一緒に滑ったりできた経験は貴重だなと思います。来シーズンは基礎的なことと自分で考えることを大切にしながら練習し、より成長していきたいです。

楽しい公式練とたくさんの応援をしてくれた師匠、優しく教えてくれた先輩方、一緒に練習してくれた同期のおかげで楽しくシーズンを過ごせました。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

佐藤翔一

同期のみんなへ

正直、疲れてスキーに行きたくない日も、休みの日から早起きしたくない日もあったけど、スキー行こう！って連絡くれたり、車出してくれたり、スキー場に行けば誰かしらいるだろうっていう安心感があったりして、なんだかんだスキーに行ってる自分がなんだかおかしくて。そしてやっぱりスキーが楽しくて。。。みんなでビデオ見せ合っただけだこうだ言い合ったり、全日本選手の滑りを見てなんだこれ？？ってなったり、それをマネしてみたらすごい変な滑りで萎えたり、新年会とかいってラーメン屋で2時間たむろしたり、どっちのほうが可愛いか議論で全然賛同されなかったり、内倒選手権して練習中にバカ笑ったり、大会前にみんなで髪染めたらその日に中止が発表されて、そのノリで次の日国際に滑りに行ったり、、どれもホントにバカみたいなことでも挙げたらキリがないけど、そのくらい充実した一年を一緒に過ごさせてもらいました。これからもよろしくね。

たくさん教えてくださった先輩のみなさんへ

たくさんのことを教えてくださりありがとうございました。同期と一緒に滑ることももちろん楽しかったですが、成長してるなと感じることができたのは先輩方と一緒に滑ってるときのほうが多かったように感じます。

特に師匠のお二人には大変お世話になりました。なかなか覚えの悪い弟子でごめんなさい笑。思うように練習が進まなかったことも多々あったと思いますが、丁寧に出来るまで繰り返し練習していただいたおかげで、自分で思っていたよりも上達できたと思います。言っていなかったのですが、弟子ふたりとも公式練が大好きで毎週日曜日を楽しみにしていました。優しい師匠で本当によかったです。そしていろいろとごちそうさまでした！

田中大賀

エレガントスキー部に入ってから、というより大学に入ってから1年経ったが、この1年は本当に一瞬だった。北海道に来たからにはそれらしいことをしたいという気持ちで入ったが、それ以上のものを得られたと思う。

週三回のオフトレは、大学生にしては多いな、などと考えていたときもあったが、今思い返せばすごく充実していたと思う。受験時期の運動不足の解消や、先輩、同期とのコミュニケーションの場にもなりよかった。

シーズンインして、初めの2週間くらいは割と順調にいつているように感じていた。

合同合宿でさらなるレベルアップを、とっていたら当日にインフルになってしまった。すごくいい機会を無駄にしてしまって悲しかったが、ふくらはぎの筋肉が落ちたことでブーツに圧迫されて血が止まることなくという奇跡が起きた。

初めて渋みを味わったのは、キロロ検定である。事前講習でも特に何も言われなかったため、まあいけるかな、などと勝手に思い込んでいたが、午後に斜面がアイスバーン気味になり、暴走しないようにと置きに行った結果小回り種目で中回りする人になってしまった。滑った直後はちょっとやらかしたかな？程度にしか思っていなかったし、一緒に受けた同期も「耐えてたと思うよ」みたいなことを言ってくれたので、不安は2割くらいしかなかった。しかし、結果は不合格で、しかも同期で落ちたのが僕だけだった。さっきまで大丈夫だといってくれていた同期からも、あれは完全に中回りだ、などとボロくそに言われた挙句アイスまでおごらされた。渋くもあつたが今ではいい思い出である。今振り返ってみると、週3、4しかスキーに行っていないうえに国際メインだったため、渋いバーン耐性がなかったのだと思う。

それからは基本週6、いけるときは週7で行くことにした。1月の終わりまでは自分の滑りが気持ち悪すぎてビデオをあまり見たくなかった。客観的にみて滑りが変わったのは新人戦選考会の直前で、きっかけはOBの方の一言アドバイスだったのだが、このときから自分の動画をしっかり見て考えることができるようになった。

2月は自分でもかなり頑張ったと思う。2月の頭に2級を取得できたり、27/29日スキーに行ったり、うまい人のビデオをみて真似したりしていた。滑走日数が全てではないが、実際いけばいくほど上達できたとし、何より楽しかったのでスキーを休みたくなかった。

しかし、まさかの岩岳中止により、一番近くにあった目標がなくなってしまったが、すぐに1級取得に切り替えられたのはよかったと思う。検定では攻めた種目ではしっかりプラスがついて、28人中合格者3人という割と高倍率を勝ち取れたので良かった。

1級をとったあとに若干満足してしまったのと、車校に通い始めたこともあって3月中盤以降はあまり滑りにいかなかった。しかし、滑りにいけた日をほぼコブの練習に全振りしたので、コブがそこそこ上達したのでよかった。

長々と書いてしまいましたが、今シーズンは本当に充実していました。シーズンを通して色々教えてくれたコーチや先輩方、一緒に滑った同期にはとても感謝しています。

最後に、シーズン中LINEでアドバイスをお願いすると50行くらいの文を返してくれる師岡さん、そんな師岡さんに適度に突っ込みを入れながら優しく接してくれるあつしさん、めっちゃ根性あってお互い切磋琢磨しあえた兄弟弟子の未来には特に感謝したいです。来シーズンもよろしくお祈りします！

照内雪絵

1年を振り返る。まずオフシーズンは、今まで全く運動をやってこなかったのが最初はトレが不安だったけど、楽しかった。でも何がスキーに生きてくるのかなどは全く分からないままやっていた。冬はスキーに捧げるためにバイトをしなくなかったのが、オフシーズンのうちにバイトを頑張った。ちょっと頑張りすぎてしまって単位は落とした。

シーズンインはウキウキで、オーンズの主になりたくて、ひたすらメールを送りまくったため、即座にメールに反応できるようになった。授業中も意識はメールに向いていたため、授業は聞かず、単位は落とした。

初期はスキーに行き過ぎた。そして「疲れたら休む」という大事なことを学んだ。来シーズンは怪我で長期間スキーお休みということに絶対にならないようにしたい。

そんなこんなで、怪我とコロナにより、私のシーズン中のイベントは合同合宿と新人戦選考会だけになってしまった。でもコーチやいろんな先輩、上手な同期にたくさん教えてもらえて楽しかったのが満足！ありがとうございました。

来シーズンは大会に出たい。これからも頑張ります！

豊岡裕太

エレに入ってからもう一年が経つと思うと時の流れの早さを感じます。色々なことがあったエレ1年目を振り返っていいと思います。

まず4月、説明会に行ってエレに入ることを決めました。前からスキー(暴走)が好きだったので、たくさんスキーができるエレに入学前から魅力を感じていました。新歓合宿では先輩方がとても優しく、これからの活動にとってもワクワクしていたのを覚えています。その後オフトレが始まりましたが、高校の時一応陸上部だったのであまりツライと思うことなく楽しく参加できました。ただ、インラインに対しての情熱がなく、同期の中で一番下手なので今年は頑張ろうと思っています。合宿や行事では特に同期とだんだん仲良くなることができすぎてすごく楽しかったです。

11月、オーンズでシーズンインし、改めてスキーの楽しさを実感しました。しかし本格的な練習が始まると、最初は「プルークからやるのか」「つまんなそうだな」という気持ちになり、レジャースキーと基礎スキーの違いを感じました。ですが1週間2週間とスキーをしているうちに、上

手くなっていく楽しさを覚え、気づけば一瞬でスキーが大好きになっていました。12月には2級をとり、1月はほぼ毎日スキーへ行き、スキーに行くのが本当に楽しかったです。ですが2月の新人戦選考会、初めてスキーで悔しさを味わうことになりました。選考会当日は朝からめっちゃめちゃ緊張していました。上位に食い込みたいという気持ちもあったし、プレッシャーを感じやすい性格だということもあると思います。本番、まずは総滑。ふわふわした気持ちのままスタートすると、1ターン目でバランスを崩してしまい、大きく減点されてしまいました。得意だと思っていた総滑で点を取れなかったこと、そして何より勝負所で失敗してしまう自分が情けなくて悔しくて、落ち込みました。その後岩岳や朝里でリベンジしてやろうと意気込みましたが、まさかの中止(髪も染めたのに…)。また、選考会後の2,3月は、1級は取れたものの、あまり成長がなく、シーズン後半は自分の中で不甲斐ないものとなってしまいました。

シーズン後半に成長できなかったのは、スキーへの研究心が足りなかったからだと思います。特にシーズン後半に急激に成長したTT君を見るとそう思いました。来シーズンの目標は道予出場、そして岩岳出場です。どちらもすごく高い目標で、簡単なことではないです。だから、オフトレを頑張って、シーズンインしたらたくさんスキーに行き、一本一本の滑りに集中して、スキーをしていない時でもスキーのことを考えて、この目標を達成できるように頑張りたいです。

最後に、一緒に滑ってくれた同期、指導してくださった師匠の友貴さん、未緒さん、先輩方、コーチの方々、本当にありがとうございました。来シーズンはもっともっと成長できるように頑張ります。

中川歩子

冬は毎年外に出る気もなく暇でしたが、去年の昨シーズンはスキーばかりやってとても充実していました。昨シーズンで最も反省すべき点は、怪我をしてしばらく滑れなくなってしまったことです。今シーズンは、自分のレベルにあっているかをちゃんと考えながら怪我をしないことを最優先に練習したいと思っています。

師匠を中心にさまざまな人に教えてもらい、シーズン最初とは全く違う滑りになったと思います。スキーの練習もとても楽しく、時間を割いて教えてくださった師匠や先輩には本当に感謝しています。ただ、小回りやコブは練習不足だったと反省し、今シーズンは小回りとコブを頑張りたいと思っています。とくにコブができたらかっこいいと思うので、できるだけ時間を割きたいです。新人戦選考会では満足した結果を残せなかったのが岩岳大会で頑張ろうと思っていたのですが、岩岳大会がなくなってしまいとても残念でした。しかし、昨シーズンの岩岳大会、朝里大会分も今シーズンの大会で頑張って、自分で納得のいく結果を出したいと思っています。そのために、今シーズンはスキーをたくさん行くだけでなく、体調管理をしっかりして、ただ滑るだけでなく一本一本集中して考えながら滑っていきたいと思います。

中込啓太

エレガントスキー部に入部した動機は、スキーが上手くなるのが北海道の楽しみ方の1つかなと考えたからです。おかげで充実した1年間を過ごすことができました。

オフシーズンからスキーの基本を1から教えてくれた北村・柴田師匠には大変お世話になりました。自分も師匠になったとき、弟子に上手くなってもらえるように、これから技術論をしっかり構築していきたいと思います。しかし、新人戦選考会は、男子最下位という悔しい結果になってしまいました。あの時の悔しさを忘れずに、来シーズンはリベンジに臨みます。

岩岳大会が中止になってしまった後は1級を取ることを目標に頑張りました。それまで、あまり取り組んでこなかったコブも集中して練習するようになりました。今シーズンの目標の1つでもあった1級をとれたのは嬉しかったです。雪不足やコロナウイルスの影響で、例年よりシーズンが短かったのは残念です。

来シーズンは、岩岳大会個人戦出場を目標に頑張ります。師匠の影響もあり、Naoki Ski Teamに入ったので、その環境を生かして上達していきたいと思います。

馬場淳平

大学でスキーをやることを決めたのは、昔同じチームだった友達と3月に何回かスキーに行っ
て、久しぶりに滑って楽しかったからだ。エレに入ったのは、マコジュニの先輩(?)の大地とケ
ンちゃんがエレと聞いたからだ。

入部した時は、体力がなかったし、約1週間の半分がエレの日だったから人生損した気分だ
った(笑)。けど、エレぐらい強制力がないと何もしないタイプだからちょうどよかった。今までの
人生で筋トレしたことないからまじできつかった。トレ合宿は日高の森に逃げようかと思ったぐら
い。

シーズンが始まってからは早かった。オーズがオープンする前日11月21日に中山峠で
滑ったのが今シーズン初すべりだった。めっちゃ楽しかった。ナイターは行けなかったけど、土
日と全休のおかげでそこそこ上手に滑れるようになったと思う。そして、練習ばかりじゃなくて楽

しんで滑れた。これがシーズン通してスキーできた理由だった。春休みも結構練習したと思う。滑りもまあまあ形になってきた。けど、コロナで岩岳中止。なんとなくそんな気がしていたけど、悲しかった。今シーズン唯一の勝てる大会だったから余計残念だった。そのあとスキーする気もなかったけど残りのパウダーで楽しんだ。いつがシーズン最後のスキーか覚えてないのが悲しい。

今シーズンは結果としては残念なシーズンだけど、スキーを始めたきっかけである楽しむことはできたと思う。来年は今年よりもちゃんと練習する日を多くして、うまくなりたいと思う。来シーズンはオーンズで俺の姿が見れるでしょう。

原祥子

師弟発表の後シーズンが始まるのを待ち遠しく思いながら先輩方の SPUR を読んでいたのに、もう自分がその SPUR を執筆する立場になってしまったことに驚いている次第である。

1 師弟の皆さんへ

今シーズンは大変お世話になりました。シーズンイン直前に捻挫したり、シーズン中も基本的に問題児でしたが、最後まで暖かく受け入れてもらえてありがたかったです。師匠おふた方とも就活をしながらの師匠ということで本当にお忙しかったと思います。そんな状況でもバリトレだったり、弟子の滑りの研究をして育ててくれたお二人には感謝しかありません。それなのにいい結果を出すことができず、不甲斐なかったです。

浅野さんへ。選考会前などいろいろな行事があるたびに一緒に滑ってもらっていた記憶があります。自分の滑りをラインにあげたときも参考動画だったり、応援のコメントを残してくれたり、とてもありがたかったです。自分の動画を見てへこむことが多々あったので本当にありがたかったです。

修平さんへ。いつの間にか私の扱いに慣れていましたね。(笑)たくさん滑りのコメントはしてくれるのに基本的にはゆる〜い感じが居心地よかったです。極寒の公式練のときは寒すぎて練習どころじゃなかったですね。ある意味いい思い出になりました。

颯大へ。まさか君が兄弟弟子になるとは思いませんでした。そして、体の使い方の分析だったりとか、師匠のコメントに対しての的確な返しとかいろいろなことを考えて滑っているんだなと刺激になりました。来シーズン機械があればまた滑ろう！

2 今シーズンの課題

今シーズンの課題(メンタル面)は以下のとおりである。

- 1 ゲレンデに行けばうまくなるだろうと思い込みすぎた。
- 2 恐怖心に勝てなかった。
- 3 必要以上に自分とを周りを比べて一喜一憂した。
- 4 飽き性なのにのめりこみすぎて燃え尽きた。

3 来シーズンに向けて

来シーズンの目標は以下のとおりである。

- 1 師匠への感謝の気持ちは結果で表す。

⇒そのために、「数を打てば当たる」論法はやめる。滑走日数にこだわらず、どのようなことを意識したらよりよい滑りになるのかある程度考えて実践するようにする。(師匠の教えだけに頼るのではなく、自分でも情報を集め様々な動きを取り入れてみる。)

- 2 無理しない。

⇒そもそも忙しい学科なので滑走時間が取れないだろうが、勉強の息抜きにスキーをできるように、スキーは楽しいものという位置づけにする。向上心を持ってスキーと向き合えるようにしたい。

- 3 オフシーズンにけがをしない。

⇒全治約2か月の捻挫をして無理矢理シーズンに入ったわけだが、今になってつけが回ってきた。完全に足首が硬くなってしまい、時と場合によっては歩いているだけでも痛みがある。オフシーズンが始まる前にちゃんとケアしておく。

松浦未来

気付けばもうエレに入ってから1年が経っています。とんでもなくはやく過ぎてしまったこの1年を、SPURを通して振り返りたいと思います。

私がエレを知ったのは新歓スキーです。でも大学に入ってスキー部に入ろうなどとは1ミリたりとも考えていませんでした。ただ新歓で、北海道で、スキーができるなんて！という動機で友達もいないのに飛び込んでいました。新歓スキーの間も寒いのが苦手やし、絶対辛いし、難しそ

うやしガチでスキーなんかやりたくないわって思っていたのに、エレの雰囲気が好きになって気付いたら入部していました。自分で自分にびっくりするのと同時に、こんな素敵なサークルに出会えて本当によかったと思います。そして新しいスポーツを始めるということにすごくワクワクしていました。

オフシーズンの間のトレはきつい時もありましたが、部員が集まって体を動かせるのが楽しくて苦ではありませんでした。ジンパやらファミコンやら登山やらイベントもたくさんあり、そうこうしている間にマテリアルも揃ってきて、師弟も発表されて、シーズンインが待ち遠しかったです。自分は初心者だけど、どこまで上手くなれるのか期待と不安がありました。

初回公式練では本当に基本から全て教えて頂きました。それからスマホを肌身離さず、メールに返信して車に乗せて頂き、いろんな先輩方に教わったおかげで徐々に上手くなり、初めて平行で滑れた時はそれだけで感動していました。初期オーズの前正面バーンに食らいついていてよかったです。でも同期は上手い人が多くてもっと頑張らないと、とずっと思っていました。それからカービングを教わったりコブに入ったりいろいろやることも増えていきましたが、兄弟弟子との差が歴然で、私は全然上手いかわなくて師匠にはご迷惑をおかけしました。すごく丁寧にたくさん教えて下さって、その分出来た時の嬉しさは半端なかったです。そうやって過ごしていくうちにいつの間にかスキーを本気でやるのが楽しくなっていました。そしてしばらく経って迎えた新人戦選考会はガチガチに緊張していました。雪がもっふもふでダウンヒルを滑った経験も全然なかったのでただただ怖いなと思いつつ頭の中真っ白で滑っていました。当然結果は満足できるものでなく、絶対岩岳までに上手くなってやると心に決めました。そして2月はひたすらオーズに通う日々でしたが、今の引きこもり生活から考えると信じられないぐらいアウトドアで来シーズンそれぐらい打ち込めるか不安になってきます。壮行会の時師匠が、弟子2人に刺激を受けた、と仰っていてそれがすごく嬉しかったのを覚えています。3月は1級取得をモチベにずっと滑っていたのですが検定の時はこけました。最後まで集中が続かないのが原因です。もっとメンタルを強くします。師匠とシーズン前に決めた目標は大会がなくなってしまったので1級取得しかなかったのですが達成できませんでした。すごく悔しいです。達成できなかったことをコロナのせいになりたいのは山々なのですが、実力不足は明白なのでもっと精進します。来年またSPURを書くときに「悔しい」なんて言葉が出てこないように、そして札幌でスキーに打ち込めるのも最後なので来シーズンは今シーズン以上に真剣にスキーに向き合いたいと思います。

最後に、師匠をはじめたくさん教えて下さった先輩方、一緒に滑って支えてくれた同期には本当に感謝しています。特に師匠にはお世話になりました。公式練は楽しくて、動画を送ったら毎回長文でアドバイスして下さい、おかげで良いシーズンを過ごすことができました。ありがとうございました。

農産物の乾燥・貯蔵・鮮度保持のパイオニア

TOMTEN GROUP

TOMTEN (トムテン) は農産物の栽培から収穫・貯蔵・加工・流通・販売に至るまでを応援する総合コンサルティング企業です。オランダをはじめとした世界の農業先進国の技術を日本の農業関係者の皆様にご提案します。



株式会社 TOMTEN

農産物貯蔵庫を専門とする設計・施工会社です。新設倉庫はもちろん、既存の倉庫の改修もお任せください。お客様のご要望に応じた貯蔵施設をご提案します。



本 社 〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL : 0155-67-5991 FAX : 0155-67-6609
札幌支社 〒062-0043 札幌市豊平区福住3条7丁目8番16号 TEL & FAX : 011-852-5541
一般社団法人(第1477号)
建設業許可: 北海道庁許可(建)(管) 電十第03870号



TOMTEN Trading 有限会社

乾燥・貯蔵・鮮度保持技術に関する各種製品を取り扱っています。



本 店 〒062-0043 札幌市豊平区福住3条7丁目8番16号 TEL & FAX : 011-852-5541
帯広支店 〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL : 0155-67-5991 FAX : 0155-67-6609

<http://www.tomten.co.jp>